

みんなの力で みんなが 笑顔

柏市地域健康福祉活動計画

平成18年3月

社会福祉法人柏市社会福祉協議会

柏市地域健康福祉活動計画策定にあたって

このたび、柏市社会福祉協議会では、「協働」をテーマに健康福祉のまちづくりを推進するため、「柏市地域健康福祉活動計画」を策定しました。

この計画は、柏市地域健康福祉計画（行政計画）と整合性を図り、「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏」の実現を目指すもので、地区別計画、民間協働推進計画、市社協発展・強化計画の3つの主体別計画で構成されています。特に地区別計画は、柏市地域健康福祉計画の一部として共有し、行政と柏市社会福祉協議会による地域活動への支援強化の指針になるものです。

福祉多元化の時代といわれる現代社会の中で、福祉サービスの供給元が、国及び地方公共団体等をはじめ、NPO法人や民間企業等のインフォーマルな集団にまでおよび、福祉サービスの選択肢の増加や内容の充実が図られています。その一方で、多角的なサービスは、提供主体の明確化やインフォーマル集団の役割、また社会福祉協議会や行政の支援のあり方など、公私「協働」の課題も生まれています。

このような課題を解決するためには、自助・共助・公助の役割を明確にし、社会福祉協議会や行政はもとより、地域で活動するグループや団体をはじめとして、住民一人ひとりが考え連携し、協働による「助けあい」や「支えあい」のしくみをつくる必要があります。

今後、柏市社会福祉協議会は、地域や関係機関等の皆様と一体となって、本計画の推進に努めてまいりますので、より一層のご支援ご協力をお願いします。

おわりに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただいた柏市地域健康福祉活動計画策定委員会委員の皆様、地区懇談会の開催にご協力いただいた皆様、実態調査等でご意見・ご提言をいただいた皆様に心からお礼申し上げます。

社会福祉法人柏市社会福祉協議会

会長 為 成 勝五郎

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. なぜ計画をつくるの？	
2. 市の「地域健康福祉計画」との関係は？	
3. いつまでの計画なの？	
4. 計画のキーワードは？	
5. 計画書の見方・使い方は？	
計画のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・	9
1. 計画の「理想」と「目標」は？	
2. 計画のキーワードの「協働」って？	
3. どんな「活動」を推進するの？	
第1章 身近な地域で健康福祉のまちづくり（地区別計画）・・・	21
1. 地区別計画はどのようにまとめられたの？	
2. 地域をとりまく状況は？	
3. 地域における健康福祉のまちづくりのすがたは？	
4. 各地区はどんな取り組みをするの？	
5. 地区別計画づくりまでの取り組みと成果は？	
第2章 民間組織・団体等による	
健康福祉のまちづくり（民間協働推進計画）・・・	63
1. 民間協働推進計画はどのようにまとめられたの？	
2. 民間組織・団体等をとりまく状況は？	
3. 民間組織・団体等による健康福祉のまちづくりのすがたは？	
4. 民間組織・団体等はどんな取り組みをするの？	
第3章 市社協発展・強化計画・・・・・・・・	99
1. 市社協発展・強化計画はどのようにまとめられたの？	
2. 市社協をとりまく状況は？	
3. 協働推進役としての市社協のすがたは？	
4. 協働推進役として市社協はどんな取り組みをするの？	
5. 協働推進役としての市社協の体制は？	
第4章 計画の推進にあたって・・・・・・・・	117
1. 計画のすすめ方は？	
2. 次のステップは？	

資料

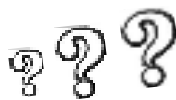
1. 計画策定の経緯
2. 計画策定委員会委員一覧
3. 別冊資料の活用方法



はじめに

1. なぜ計画をつくるの？
2. 市の「地域健康福祉計画」との関係は？
3. いつまでの計画なの？
4. 計画のキーワードは？
5. 計画書の見方・使い方は？

はじめに



1 なぜ計画をつくるの？

みんなで「助けあい」や「支えあい」のしくみをつくって、誰もが安心して暮らせる地域にするために計画をつくりま

す。



地域が変化している！

少子化や高齢化がすすみ、私たちが生活する地域の環境も大変な速さで変化してきています。身近な環境の変化は、一人ひとりの意識にも影響を与え、健康福祉の必要性を増し、私たちが求める内容も千差万別で複雑なものになっています。

つまり、「だれもが安心して暮らせる」地域であることが、とても難しい時代になってきているのです。



そこで、地域の「みんなの力」をつなぐことが必要！

変化に対応するためには、地域で活動するグループや団体をはじめ、住民みんなが考え連携し、「助けあい」や「支えあい」のしくみをつくる必要があります。



そして、「みんなが笑顔」になれる協働で健康福祉活動を推進！

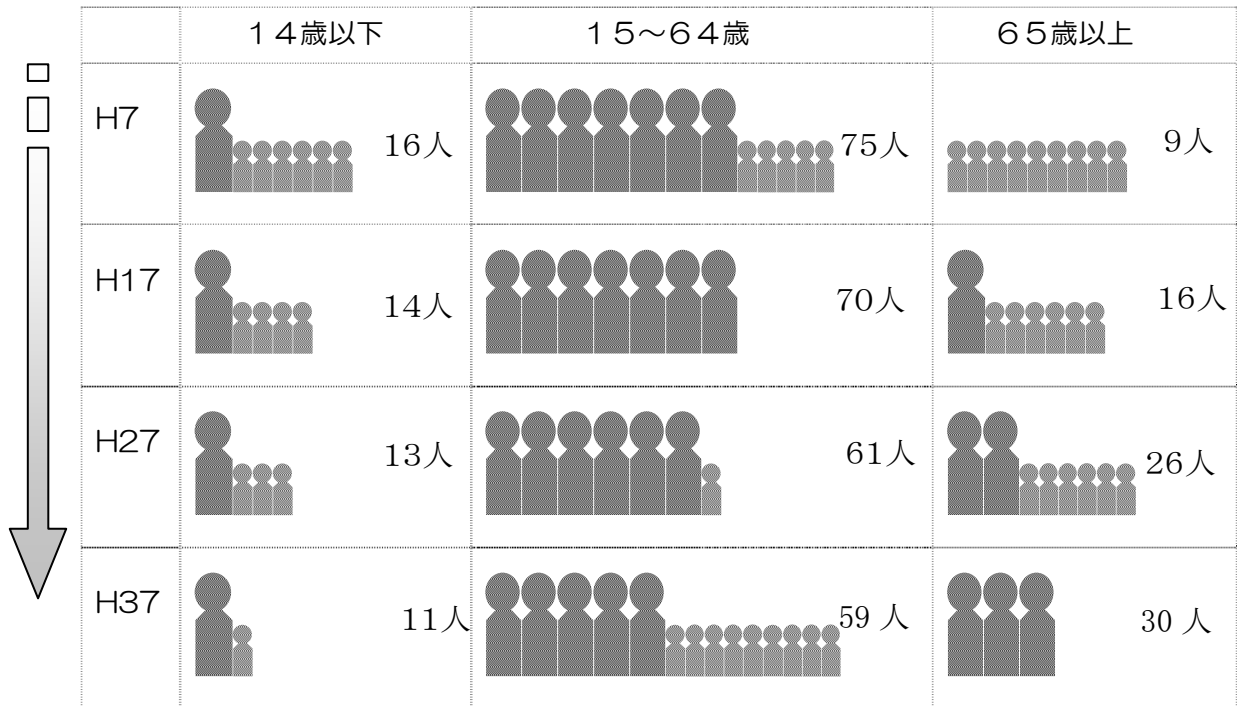
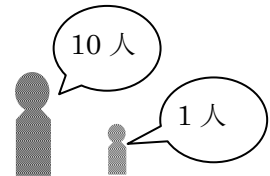
柏市では、平成 16 年に地域健康福祉計画を策定し、地域で取り組む健康福祉活動の支援の充実に努めていますが、近年の住民の生活スタイルや意識の多様化に伴い、その支援にも限界が出ています。

これからは、地域のボランティアや民間事業者などが連携し主体となって、その行動力や知恵を活かした、健康福祉活動の展開が求められます。

そして、市社協や行政との協働で健康福祉をすすめるために、「みんなの力でみんなが笑顔」をスローガンに、「柏市地域健康福祉活動計画」を策定します。

もし柏市の人口が100人だったら！？

●20年後は？ ～少子化・高齢化の推移～



●100人に3人が何らかの障がいを抱えて生活しています。

身体障がい、知的障がい、精神障がいを抱えた方々の総数は、柏市の人口の約2.6%を占めています。

■今後予想される柏市の人口推移

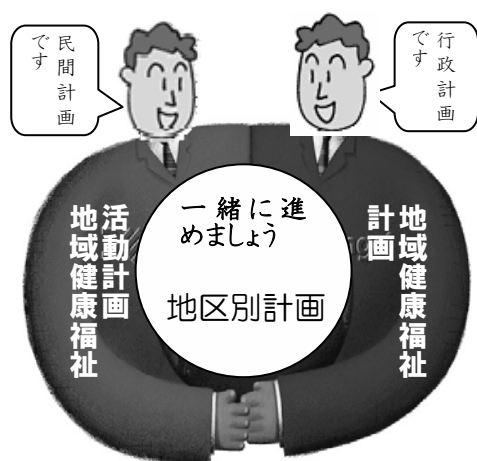
		(人)			
年	年齢	14歳以下	15～64歳	65歳以上	合 計
平成7年		57,572	271,689	33,452	362,713
平成17年		53,108	266,764	61,425	381,297
平成27年		50,627	240,180	101,633	392,440
平成37年		41,632	229,615	115,095	386,342

柏市企画部事務管理課推計値より

2 市の「地域健康福祉計画」との関係は？

地域健康福祉計画（行政計画）をもとに、地域や民間組織・団体等が主体となってすすめる健康福祉活動のための計画が「地域健康福祉活動計画」です。

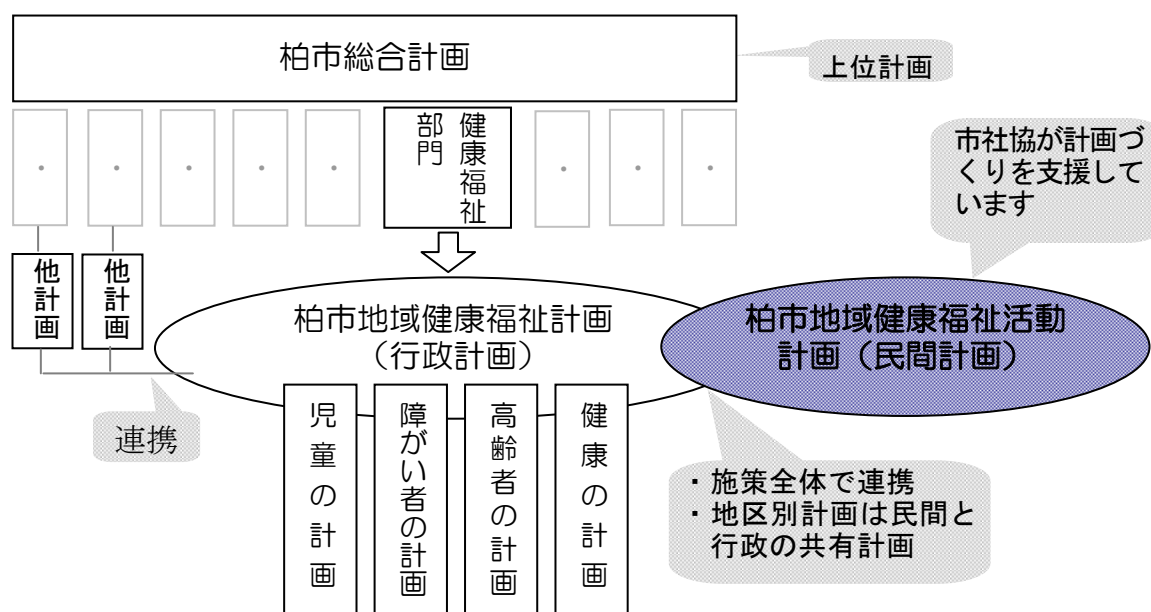
2つの計画は、健康福祉をすすめるために、なくてはならない車の両輪のようなものです。特に、地域住民の方々の懇談会をもとに策定された「地区別計画」は、地域健康福祉活動計画（民間計画）と地域健康福祉計画（行政計画）の共有の計画として位置づけています。



地域健康福祉活動計画（民間計画）は、柏市が平成16年に策定した地域健康福祉計画（行政計画）と同じ理念にもとづく、多くの地域住民や民間組織・団体等が参画する行動計画です。

両計画の考え方や取り組みが、地域で一体化されて推進できるよう、十分な連携を図りながらすすめていきます。

行政計画との関係



3 いつまでの計画なの？

計画の期間は？

平成18年度から20年度までの3年間です。

地域健康福祉計画（行政計画）の期間に合わせることで、行政と民間の連携を深め、計画を一体的にすすめるものです。

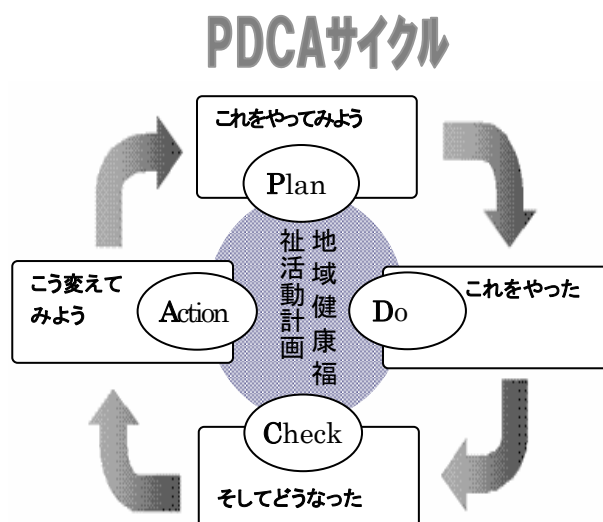
年度 計画名	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1	2 2	
地域健康福祉活動 計画(民間計画)					3ヵ年計画			新5ヵ年計画		
			策定期間			見直し期間				
地域健康福祉計画 (行政計画)			5ヵ年計画					新5ヵ年計画		
	策定期間					見直し期間				

計画の見直しは？

平成19年度から次の計画策定のための準備がはじまります。

見直しは、期間を設けて行われますが、環境の変化が激しい中では、今回策定する3年間の計画も、不確定なものといえます。

そこで、計画推進に必要なPDCAサイクルを活用し、新たな問題や課題が生まれたときは、即座に本計画の見直しにも対応します。



4 計画のキーワードは？

計画のキーワードは3つ！

「健康福祉」「協働」「社会福祉協議会」

Q. 健康福祉って何ですか？

A. 「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせる」ことです。

住み慣れた地域でだれもが安心して暮らせるように、地区社協をはじめ、地域住民、福祉施設などを経営する人、当事者団体やボランティア活動などを行う人たちが、市社協や行政と力を合わせて、みんなでまちづくりをする取り組みが「健康福祉」です。

Q. 健康福祉はだれがするの？

A. 私たち住民と市社協、地域活動団体や民間事業者、そして行政などがともにすすめるものです。

地域には、地区社協をはじめ、民生委員・児童委員（主任児童委員）や柏市民健康づくり推進員などが、住民の健康福祉増進を図ることを目的にさまざまな活動を展開しています。

しかし、一部の人だけでできることには限りがあります。見守りや声かけ、あいさつ、話し相手など、だれでもできることが、困っている人にとって、とても安心できることです。

Q. 協働って何ですか？

A. この計画には、なくてはならない考え方です。「協働」は参加する個人、団体を尊重して自由に柔軟な対応を可能にする考え方です。

1. 協働というのは、異なる立場や特徴を持った人や団体が、互いに対等な立場で、それぞれの持ち味を発揮しながら、ともに何かを創り出していくことです。
2. 協働は決してしなければならないものではないし、常に良いというわけではありません。しかし、良い協働関係が生まれれば、協働しているもの同士や地域社会に、より大きな恩恵をもたらすかもしれません。
3. 協働は、それぞれのニーズ、共通の目的・課題があってはじめて生まれます。こうしたことがなければ、協働する必要はなく、なくなれば協働関係は解消されて良いのです。
4. 協働にはそれなりのマナー、姿勢、方法論が必要です。同様に、協働関係が生まれるための意図的な働きかけ、プログラム、装置が必要です。

.....

Q. 社会福祉協議会はどんな仕事をしているの？

A. 健康福祉の課題をみんなの課題として、考え、話し合い、計画を立てて解決に結びつけます。

.....

1. **市の社会福祉協議会（市社協）**は、健康福祉に関する事業の調査や研究をしながら、住民に必要な福祉サービスの提供や地域活動への参加促進、また、健康福祉活動への支援や連絡調整、ボランティアセンターの運営などをすすめている民間の非営利団体（社会福祉法人）です。
2. **地区の社会福祉協議会（地区社協）**は、地域住民や、町会・自治会・区等、民生委員・児童委員（主任児童委員）、柏市民健康づくり推進員やその他地区の各種団体から選出された方々によって構成され、住民一人ひとりが健康福祉活動に参加して、地域の中で「助けあい」や「支えあい」を育てていくための住民組織です。地域は、習慣、人々の状態や福祉に対する思いも異なるため、できるだけ地域に合った方法で、健康福祉をすすめることが必要です。現在市内に24の地区社協が設置され、それぞれ地域に根ざした健康福祉活動を展開しています。
3. **地区社協と市社協の役割**は、地区内の健康福祉課題に対して、主体的・自発的に取り組み、課題の解決のために活動する地区社協に対し、市社協はそれらの地区社協の諸活動に必要な財政支援をはじめ、情報提供、地区社協間や市社協との連絡調整などによる支援を行います。また、一つの地区では解決できない健康福祉課題や各地区が共通して抱える問題は、全市域対象の健康福祉課題として、市社協が地区社協と協力して、その解決にあたることになります。



5 計画書の見方・使い方は？

特に留意すべきところは？

各論の構成は、地域、民間組織・団体等、市社協の3つの活動主体をそれぞれ別々の計画に位置づけながら、協働による連携の方策をとりあげています。

●この計画は、第1章から第4章で構成しています。

まず、計画の概要をご理解いただくために、「はじめに」では、計画の背景や行政の計画との関連性、期間などをとりあげています。

また、総論となる「計画のあらまし」では、協働をテーマとした理想や目標、施策事業の一覧などをとりあげています。

特に地域健康福祉活動計画（民間計画）と地域健康福祉計画（行政計画）との関係、施策や取り組みの概要をお知りになりたい方は、こちらをお読みください。

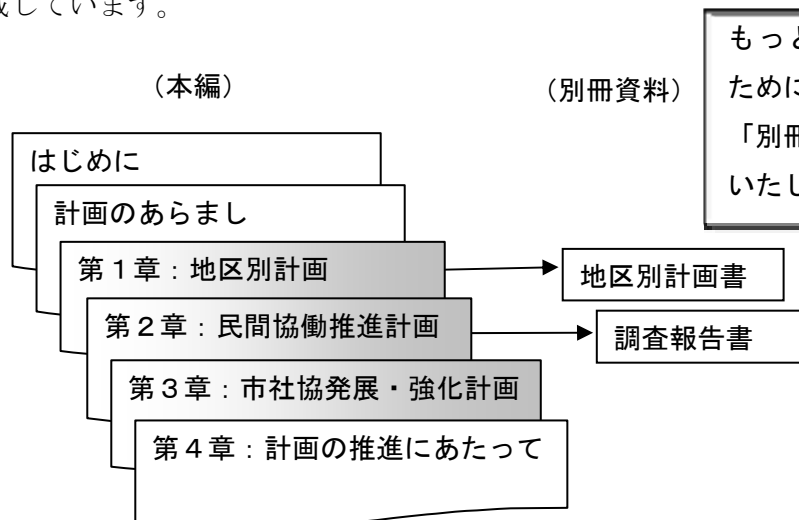


●第1章から第3章は主体別の取り組みを示した計画です。

この計画は、健康福祉を推進する上で重要な主体となる、第1章「地域」、第2章「民間組織・団体等」、第3章「市社協」がそれぞれの計画として独自の取り組みを位置づけるとともに、協働の考え方のもとで三位一体となった健康福祉の推進をとりあげています。（今までの計画は、主体別ではなく、目標や施策ごとに構成をされているのが一般的です。）

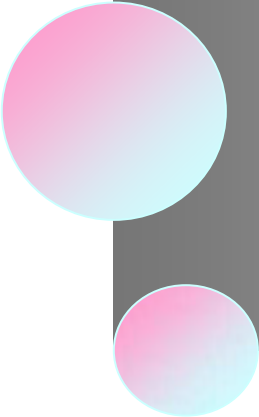
●計画推進の^{かなめ}要となる評価のしくみを第4章でとりあげています。

第4章の「計画の推進にあたって」では、進行管理と柔軟な計画変更のしくみづくりをご理解いただくために、計画のすすめ方の中で、評価や見直しの方法などについて記載しています。



もっと知りたい方の
ために、活動に役立つ
「別冊資料」をご用意
いたしました。





計画のあらまし

1. 計画の「理想」と「目標」は？
2. 計画のキーワードの「協働」って？
3. どんな「活動」を推進するの？

計画のあらまし

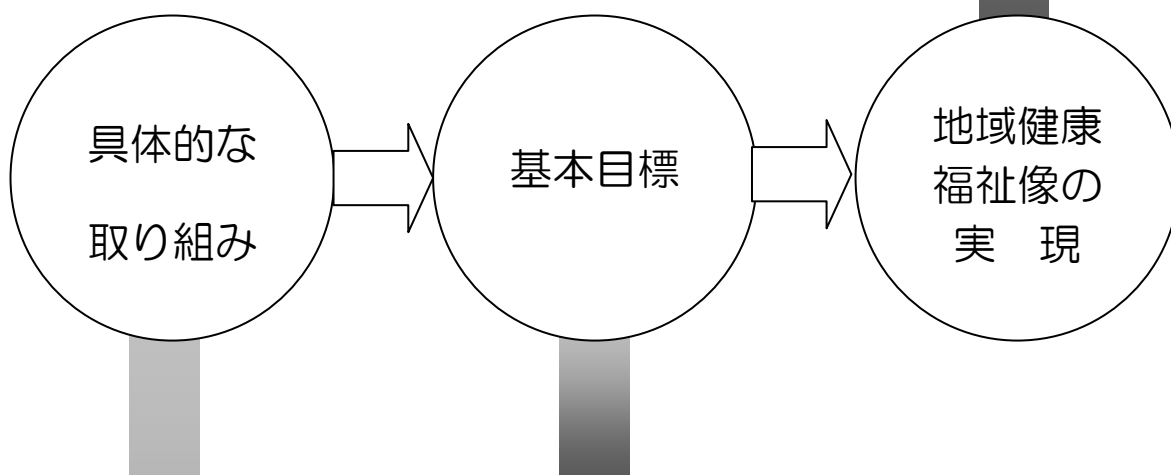
1 計画の「理想」と「目標」は？

「理想」はひとつ!?

「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏」です。

私たち住民一人ひとりが、自ら考え行動する「助けあい」や「支えあい」の精神を持って、協働で健康福祉の推進を目指します。

地域健康福祉計画（行政計画）で掲げる地域健康福祉像「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏」を地域健康福祉活動計画（民間計画）の理想に掲げ、私たち住民みんなの思いとしてしっかり位置づけます。



「目標」は3つ!?

- ① 健康福祉を担う「ひとづくり」「しくみづくり」をすすめます。
- ② みんなで健康づくりと生活の自立を目指します。
- ③ 新たな健康福祉の課題に取り組みます。

理想を実現するために、3つの目標を定め、地域、民間組織・団体等、市社協及び行政の協働による健康福祉活動を展開します。

「具体的な取り組み」は？

地域、民間組織・団体等、市社協による3つの主体別計画をひとつの活動計画として位置づけ、役割分担のもとで協働します。

3つの主体別計画には、次の役割があります。

① 地区別計画

24地区別の健康福祉課題や活動テーマを明らかにした行動計画で、住民が中心となって取り組む地域づくりの根幹を成す計画です。

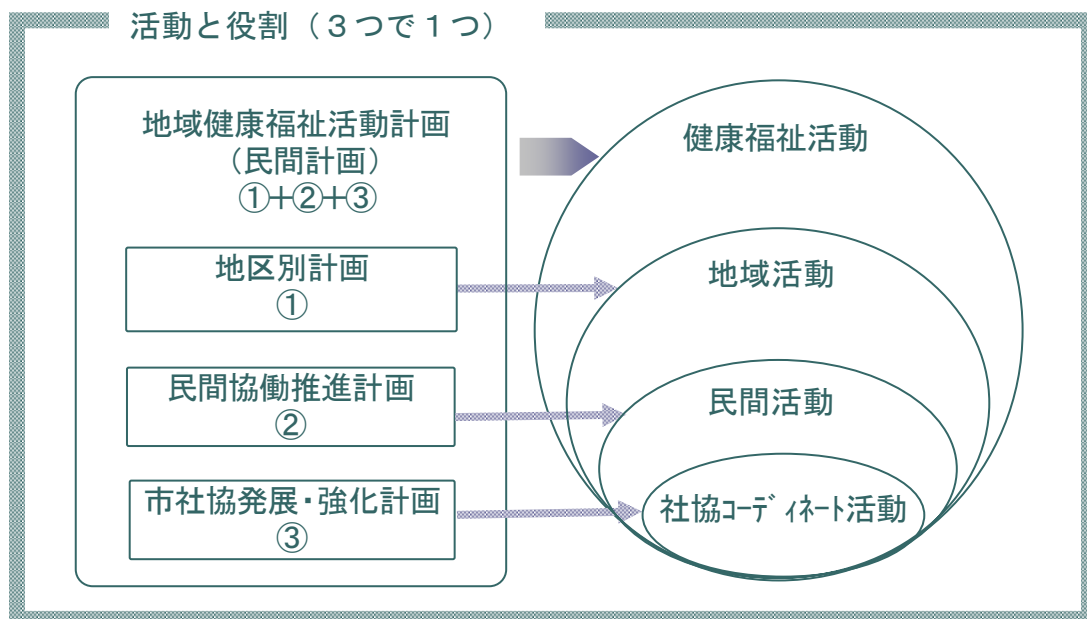
② 民間協働推進計画

市内のボランティアグループ・NPO法人、福祉事業者、当事者団体、医療機関ソーシャルワーカー、また企業や商店会などによる地域における健康福祉の推進に向けた社会的役割と活動を行政計画のテーマに沿って位置づけたものです。

③ 市社協発展・強化計画

地域や民間活動の支援方法や健康福祉活動を推進する中心的役割を担う市社協の今後の方針を明記したものです。

以上の役割を明確に位置づけ、「協働」の考え方をもとに、施策や事業を展開します。



2 計画のキーワードの「協働」って？

協働とプラットフォーム？

「協働」は、共通のルールやシステムのもとで、参画する個人や団体による自由で柔軟な対応を可能にする考え方です。そして、「プラットフォーム」は協働の場です。

地域での暮らしの場を支えるサービスには、介護保険などのフォーマルなサービスから、NPOやボランティアによるサービス、住民同士のつながりや交流、住民が参加して運営できるプログラムまで多様にあります。

また、NPOやボランティア、住民参加型の活動は、それぞれの自発性をもって、異なる使命とルールで活動しています。

このような多様な地域の力を「協働」で活かすことができます。

参加者を一定のしくみに押し込めるのではなく、共通のルールやシステムにもとづき、みんなで活動することで、それぞれの活動を尊重することが可能になり、自由な発想や新しいサービスへのチャレンジが生まれてきます。

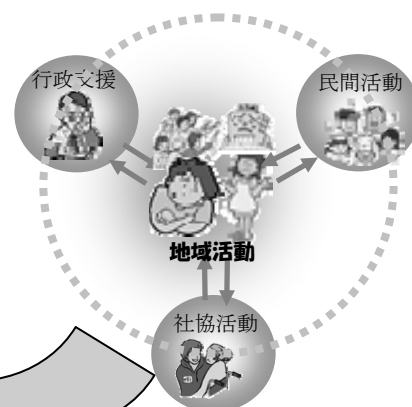


これからの協働

「協働」の場は「プラットフォーム」と呼ばれています。

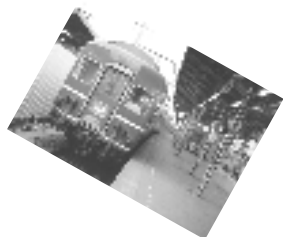
さまざまな人々・団体がそれぞれ独自の活動理念にもとづく特性を発揮しながらも、協働して地域の課題解決にあたることのできる共通のルールあるいはシステムです。

いままでの連携（協働）



協働の場「プラットフォーム」の活かし方は？

活動する場、バトンタッチの場、結びつける場、その機能は、「いろいろあってよい」と自由に考えましょう。



駅のプラットフォームのように、乗り入れたり乗り継いだりしながら、みんなが乗って利用できる新しい協働の場が、プラットフォームです。

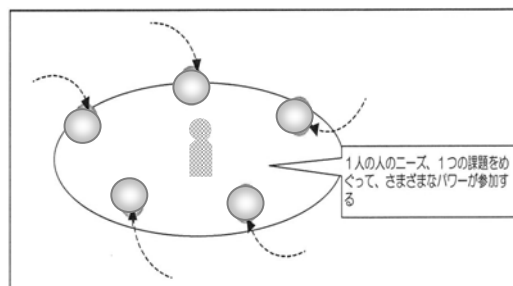
「ボランティアやNPOなど、さまざまなサービスを提供する主体が乗る舞台」「独自性を保ちながら、自発的に、対等な立場で一緒に乗る台」といったイメージです。



プラットフォームのいろいろ

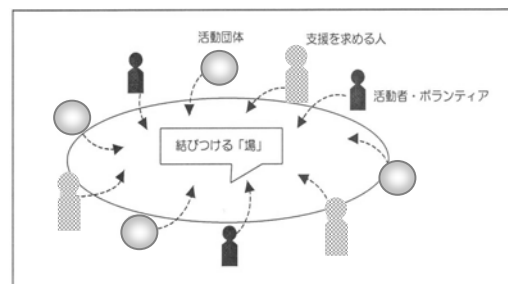
●活動する場

地域の暮らしの場を支える活動に、ちからを発揮できるさまざまな活動団体や個人が、ともに集まって一緒に「活動する場」であってもよいでしょう。⇒同じような課題に別々にアプローチするよりも、いっしょに解決を図る方がうまくいきます。



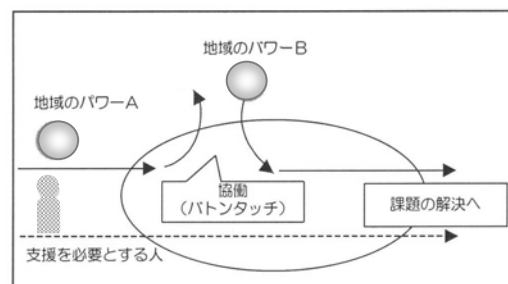
●結びつける場

地域のパワーを吸い上げ、支援を必要とする人の声を吸い上げ、「結びつけるしくみ」でもよいでしょう。⇒結びつけるしくみがなければ、パワーは活かされず、支援は届きません。



●バトンタッチの場

暮らしの場を支えるサービスをそれぞれの団体や活動者が少しずつ持っているとき、それをつなぐことによって、ひとりの人が必要とする支援が最初から終わりまで完結する「バトンタッチのしくみ」でもよいでしょう。⇒ひとりの人にとって問題解決に至るまでを「描ける」しくみが、協働によって完成します。

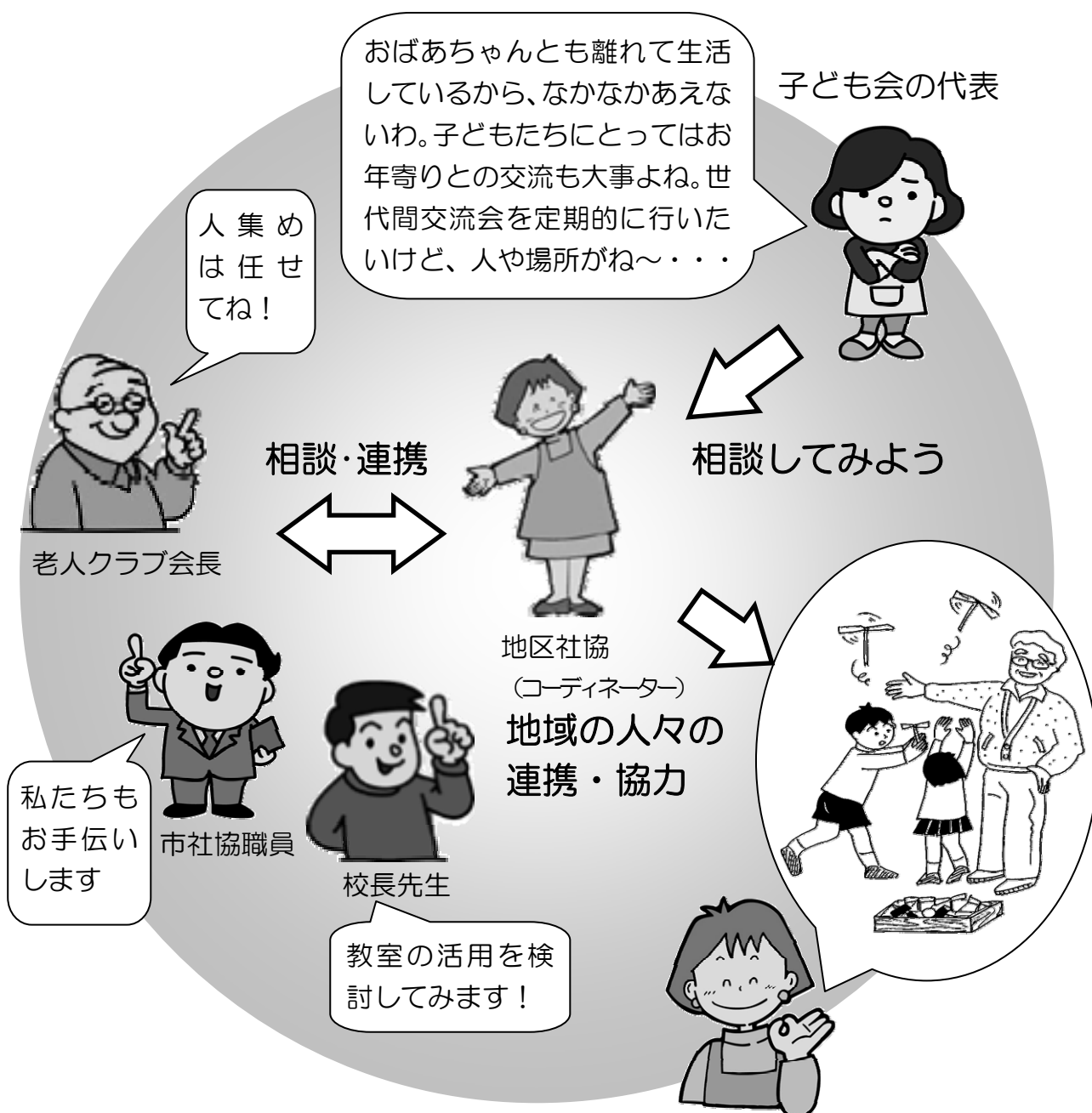


※地域のパワーをつなぐ協働～くらしの場をささえるしくみづくり～（社会福祉法人全国社会福祉協議会／全国ボランティア活動振興センター）より引用。

「プラットフォーム」から生まれる協働は？

身近な地域にプラットフォームができるとこんなことができます。

事例：地域での世代間交流事業の展開



地域プラットフォーム

「プラットフォーム」から生まれる協働は？

生活圏域(広域)にプラットフォームができるとこんなことができます。

事例：「認知症になっても安心安全なまちづくり」の取り組み



生活圏域プラットフォーム

3 どんな「活動」を推進するの？

具体的な活動の位置づけは？

地域と民間活動は、独自の活動と協働の方向を探り、市社協がこれを支援します。

健康福祉の推進並びに地域健康福祉像の実現に向けて、3つの目標を設定します。

また、施策の展開では、活動主体別に協働の取り組みを位置づけ、民間の行動力や知恵を活かし、行政の施策領域を補完するとともに、新たな領域を開拓します。

なお、この体系で位置づける活動主体別協働の取り組みでは、「地域」は活動と協働の指針、「民間組織・団体等」は協働の方向と可能性を示し、「市社協」は各活動主体の今後の取り組みに対する支援方策と協働のあり方を明らかにしています。

望ましい地域健康福祉像

「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で
いきいきと暮らせるまち 柏」

目標 1

健康福祉を担う
「ひとづくり」
「しくみづくり」
をすすめます

目標 2

みんなで
健康づくりと
生活の自立を
目指します

目標 3

新たな
健康福祉の
課題に
取り組みます

かつ同種大別の協働の取り組み

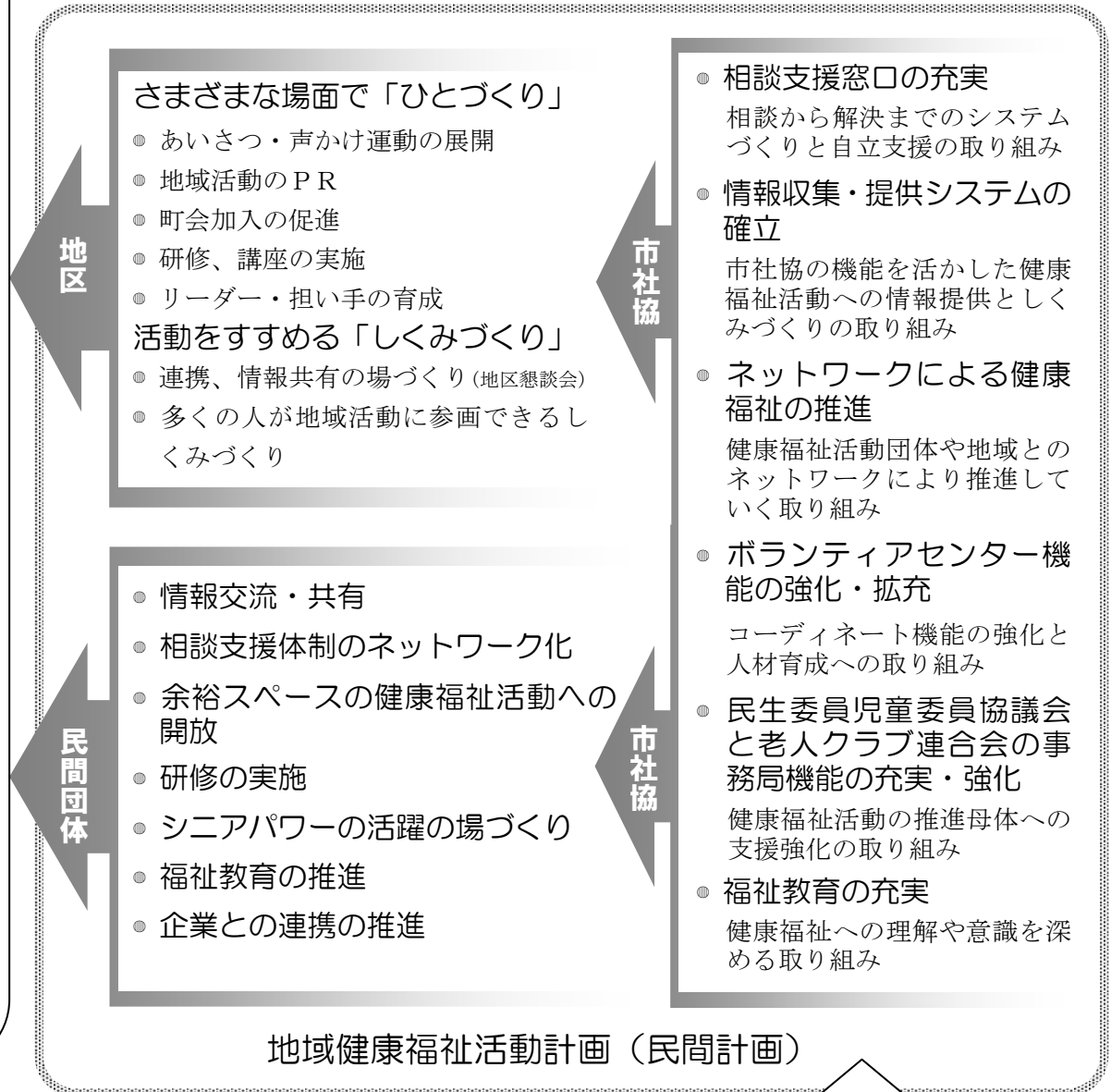
地 域

民間組織・団体等

市 社 協

目標1 健康福祉を担う「ひとづくり」「しくみづくり」をすすめます

総合的・効果的に健康福祉施策をすすめていくために必要なシステムの整備や人材の育成など、基盤整備に関する施策



目標2 みんなで健康づくりと生活の自立を目指します

幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高年期といったライフステージ
この健康福祉課題に対応する施策

地区

世代を問わず地域の人々で「交流」

- 世代間交流の推進
- 身近な方々との交流
- おせっ会・サロン活動の推進

地域の人々で楽しく「健康づくり」

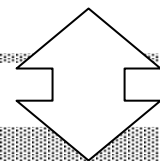
- 健康づくり活動の推進
- 介護予防の推進

地域の人々で「助けあい支えあい」

- 見守り合う活動の推進
- 日常生活支援の推進

民間団体

- 地域の一員としての参加
- ボランティアの協力を得て活動の充実
- 見守り体制のネットワーク化
- 活動の周知
- 予防の視点にもとづく取り組み



行政

テーマ：子どもたちが健やかに成長できるまち

- ・乳幼児・学齢期の健康づくりの推進
- ・思春期保健対策の充実
- ・子どもの成長を支援する環境づくりの推進
- ・活動の場の確保
- ・自立支援の推進

テーマ：安心して子育てができるまち

- ・保護者の健康づくりと子育て環境の整備の推進
- ・子育てを支援する地域サービスの充実
- ・多様な保育ニーズへの対応
- ・子育てに伴う経済的支援の充実

テーマ：一人ひとりの可能性を十分に活かせるまち

- ・市民が主体的に取り組む健康づくりの推進
- ・生活習慣病の予防
- ・社会参加活動の促進
- ・生活困窮者への支援
- ・障がい者の社会参加と就労への支援
- ・障がい者の住まいの確保と生活の質の向上
- ・介護予防の推進
- ・介護者への支援

市社協

市社協

● 地区社協への支援強化

地域で幅広い世代を対象として、身近な地域において助けあい支えあい活動を広く展開していく活動を支援する取り組み

● ニーズに適した在宅福祉サービスの展開・開発

ニーズを重視し、既存のサービスの質の向上・内容の充実とともに新たなサービスの開発と必要なサービスが継続的・効果的に提供し、支援できる取り組み

● 介護予防の推進

市社協でもつ既存の事業や地域活動に介護予防の視点を持ち、広く住民とともに進めていく取り組み

● 市社協の機能を最大限に活かした受託事業の展開

指定管理者制度の導入にともない、市社協のあらゆる事業や機能を考慮し、市社協らしい健康福祉事業の取り組み

地域健康福祉活動計画（民間計画）

テーマ：安心して住み続けられるまち

- ・元気高齢者づくりの促進
- ・日常生活の支援
- ・高齢者の住まいの確保
- ・一人暮らしの高齢者・高齢者のみの世帯への支援
- ・認知症高齢者への支援
- ・介護保険サービス基盤の整備
- ・介護保険サービスの質の向上

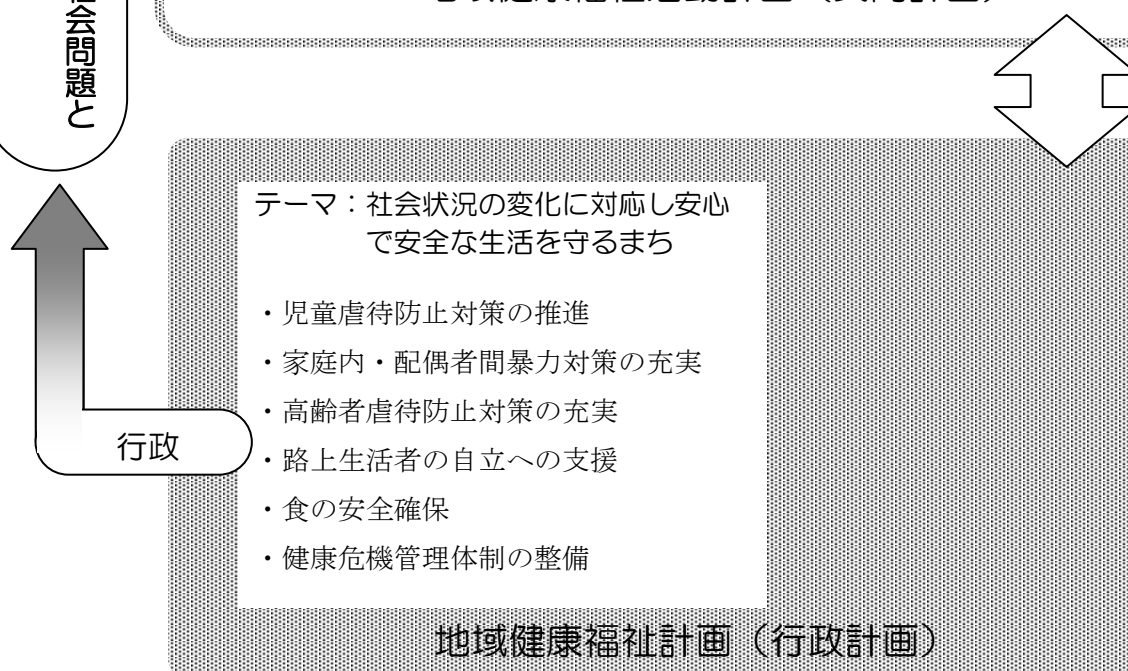
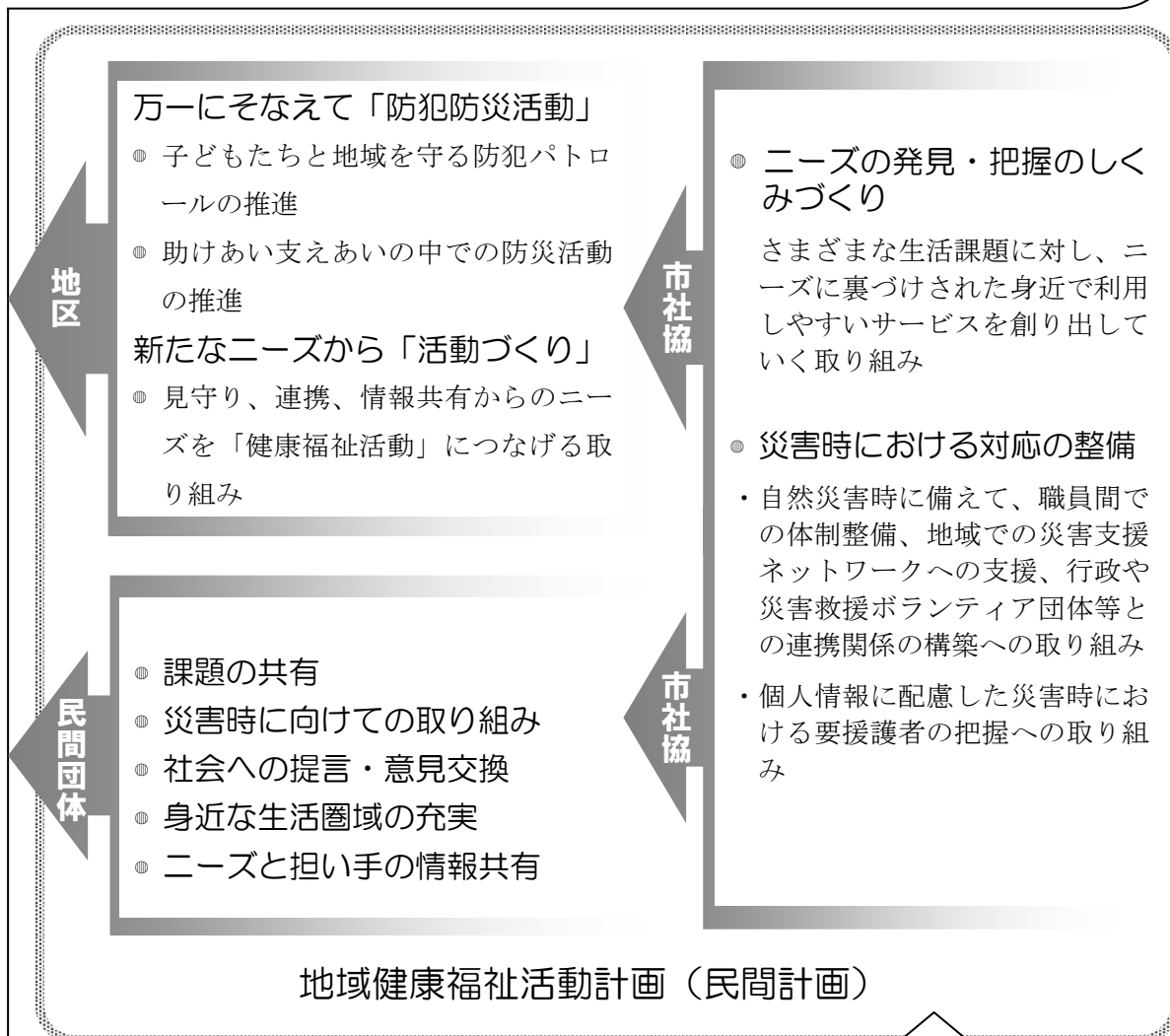
テーマ：みんなの健康を見守るまち

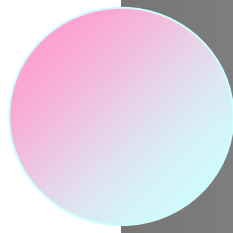
- ・地域医療体制の整備
- ・歯科保健医療対策の推進
- ・感染症予防対策の充実
- ・医療の安全確保

地域健康福祉計画（行政計画）

目標3 新たな健康福祉の課題に取り組みます

社会状況の変化、ライフスタイルの多様化などに伴って、最近、社会問題と
なっている課題に対応する施策





第1章

身近な地域で健康福祉 のまちづくり (地区別計画)

1. 地区別計画はどのようにまとめられたの？
2. 地域をとりまく状況は？
3. 地域における健康福祉のまちづくりのすがたは？
4. 各地区はどんな取り組みをするの？
5. 地区別計画づくりまでの取り組みと成果は？

第1章 身近な地域で健康福祉のまちづくり

1 地区別計画はどのようにまとめられたの？

地区別計画のねらいは？

これから地域で「どんな健康福祉活動を行っていくか」を明らかにします。

今後の健康福祉において、最も重要なものは、「身近な地域における健康福祉のまちづくり」です。そこで、24の地区社協を中心に、あらゆる地域の方々とともに、懇談会を通じながら策定したのが地区別計画です。

ここでは、地区の計画をもとに、「地域での現状や課題に対して、“地域ができる今後の健康福祉活動は何か？”」を明らかにします。

話し合いの積み重ねで
計画づくり！



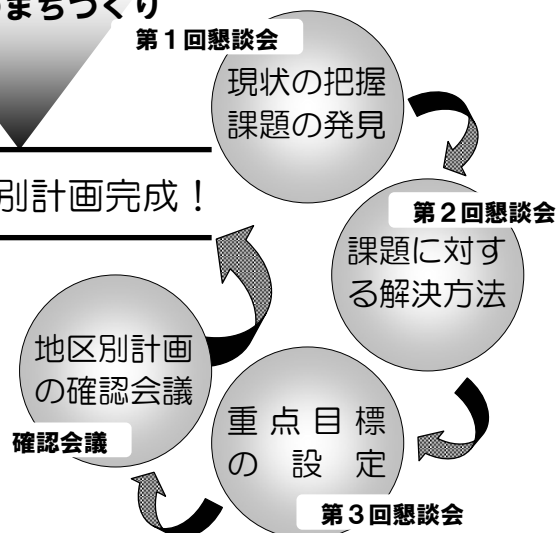
地区別計画はどのようにとりまとめられたの？

全地区あわせて、合計98回、延べ2,272名の参画により、各地区で懇談会を積み重ねて出来ました。

地区別計画の策定は、平成15～16年度モデル地区の実績や計画をもとに、他の22地区の計画づくりをしました。策定作業は、合計4回の懇談の場をつくり、懇談会には各地区社協を中心に、地区内の各種団体・組織など、あらゆる分野の方々が集い、市社協や行政も一緒になって計画づくりに参画しました。

身近な地域における 健康福祉のまちづくり

地区別計画完成！



2 地域をとりまく状況は？

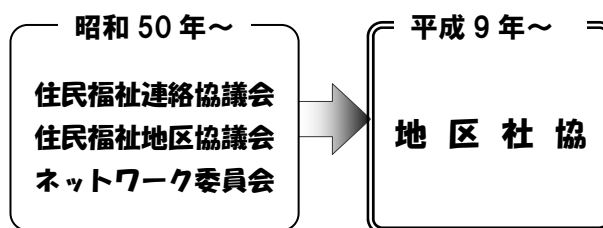
地区社会福祉協議会（地区社協）の発足は？

住民福祉連絡協議会⇒住民福祉地区協議会⇒地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会⇒地区社協

小地域の健康福祉活動は、昭和50年に住民福祉連絡協議会が発足され、その翌年には住民福祉地区協議会として組織。

昭和62年には地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会を設置。敬老会やふれあいの集いなどの実践が行われてきました。その後、平成8年の千葉県の第3次計画により、翌年から順次地区社協へと移行し、現在の活動に至っています。

小地域組織の成り立ち



活動内容はどのように変化していますか？

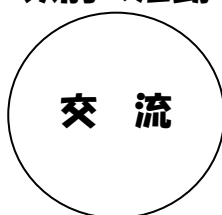
交流活動にくわえて、「身近な地域での助けあい支えあい活動」が推進されています。

活動内容については、昭和期には主に交流活動が中心となっていました。

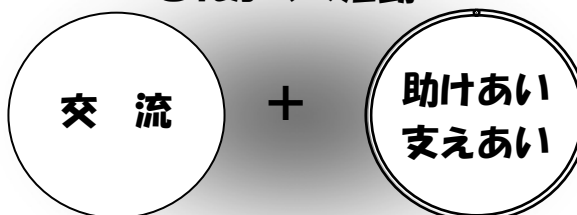
その後、少子高齢化や核家族化といった社会変化などにより、家族間だけでは、育児、介護などといったことが難しくなっています。

そこで、近年、「身近な地域での助けあい支えあい活動」の必要性が生まれ、今日の活動につながっています。

以前の活動



これからの活動

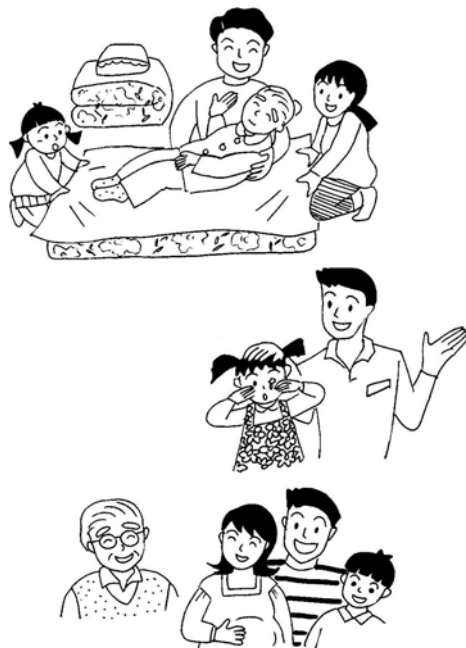


地域ではどんな健康福祉活動が行われていますか？

地域にある組織や団体、さまざまな分野のボランティアが手を取りあって、身近な地域での健康福祉活動を行っています。

柏市では、地区社協の活動をはじめ、民生委員・児童委員（主任児童委員）や柏市民健康づくり推進員といった制度ボランティアを中心に、地域のボランティアと共に、おせっ会・サロン活動などの身近な助けあい支えあい活動が広く展開されているところに特徴があります。

その活動にあたっては、町会・自治会・区等といった住民の基礎組織や地域活動団体などとの協働の中で実践されていることもその特徴です。

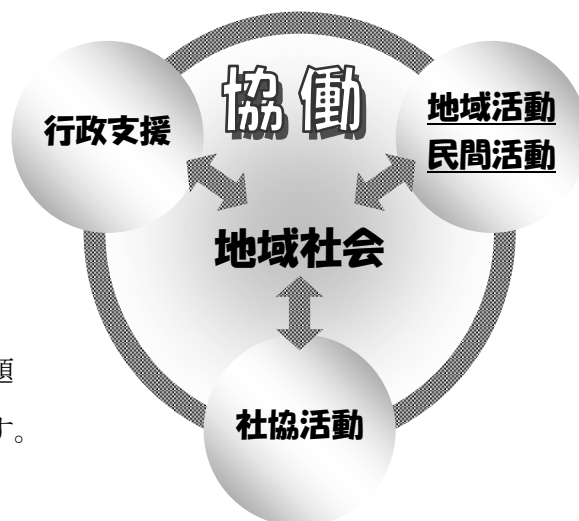


これから求められていることは？

地域、民間組織・団体等、行政、市社協が一体となって、地域の健康福祉課題に「協働」で取り組むことが求められています。

近年の人口変化や不況、近所付き合いの少なさ、地域犯罪の増加などは、地域のあらゆるところでさまざまな影響を与えており、単に行政サービスや地域活動だけでは、支えきれない状況に直面しつつあります。

そこで、地域、民間組織・団体等、行政、市社協が一体となって、地域の健康福祉課題に協働で取り組む体制が求められています。



3 地域における健康福祉のまちづくりのすがたは？

懇談会ではどんな話し合いがされたのですか？

地域の課題や理想の地域、これからの地域における健康福祉活動について話し合いました。

全 98 回、延べ 2,272 名が参画した懇談会では、さまざまな意見が交わされました。

地域の課題や理想の地域、これからの活動について整理すると次のようになります。

地域の悩み・活動の課題

- ・ 町会未加入世帯の増加
- ・ 人材不足（若い世代、団塊の世代など）
- ・ 活動の場（拠点）の確保が難しい
- ・ 情報の収集、提供、共有の方法や場（機会）づくりが難しい
- ・ 活動資金、活動のマンネリ化など



みんなが願う理想の地域

- ・ あいさつを交わしあい、知らせあい、誘いあい、相談しあえる関係がある地域
- ・ 町会、自治会、区等の活動を理解し、向こう三軒両隣の付き合いがある地域
- ・ 子どもから、障がい者、高齢者まで、多くの人が互いに「助けあい支えあう」地域



これからの健康福祉活動

- ・ さまざまな場面で「ひとづくり」
- ・ 活動をすすめる「しくみづくり」
- ・ 世代を問わず地域みんなで「交流」
- ・ 地域みんなで楽しく「健康づくり」
- ・ 地域みんなで「助けあい支えあい」
- ・ 万一にそなえて「防犯防災活動」
- ・ 新たなニーズから「活動づくり」



これからの地域における健康福祉活動は？

地域健康福祉活動計画（民間計画）の3つの目標に向かって、地域では次のような活動を推進していきます。

目標1

健康福祉を担う
「ひとづくり」
「しくみづくり」
をすすめます

さまざまな場面で「ひとづくり」

- ☆あいさつ・声かけ運動の展開
- ☆地域活動のPR ☆町会加入の促進
- ☆研修・講座の実施 ☆リーダー・担い手の育成

活動をすすめる「しくみづくり」

- ☆連携・情報（ニーズ）共有の場づくり（地区懇談会）
- ☆多くの人が地域活動に参画できるしくみづくり

目標2

みんなで
健康づくりと
生活の自立を
目指します

世代を問わず地域の人みんなで「交流」

- ☆世代間交流の推進 ☆身近な方々との交流
- ☆おせっ会・サロン活動の推進

地域の人みんなで楽しく「健康づくり」

- ☆健康づくり活動の推進 ☆介護予防の推進

地域の人みんなで「助けあい支えあい」

- ☆見守り合う活動の推進 ☆日常生活支援の推進

目標3

新たな
健康福祉の
課題に
取り組みます

万一にそなえて「防犯防災活動」

- ☆子どもたちと地域を守る防犯パトロールの推進
- ☆助けあい支えあいの中での防災活動の推進

新たなニーズから「活動づくり」

- ☆見守り、連携、情報共有からのニーズを「健康福祉活動」につなげる取り組み

目標達成のためにどうするの？

さまざまな“ひと”が集う“協働の場”（地区社協や地区懇談会など）から、地域の健康福祉活動を広く展開します。

さまざまな場面で「ひとづくり」

- ☆あいさつ・声かけ運動の展開
- ☆地域活動のPR
- ☆町会加入の促進
- ☆研修・講座の開催
- ☆リーダー・担い手の育成

活動をすすめる「しくみづくり」

- ☆連携・情報（ニーズ）共有の場づくり
- ☆多くの人が地域活動に参画できるしくみづくり

世代を問わず地域のみんなで「交流」

- ☆世代間交流の推進
- ☆身近な方々との交流
- ☆おせっ会・サロン活動の推進

地域のみんなで楽しく「健康づくり」

- ☆健康づくり活動の推進
- ☆介護予防の推進

地域のみんなで「助けあい支えあい」

- ☆見守り合う活動の推進
- ☆日常生活支援の推進

万一来備えて「防犯防災活動」

- ☆子ども達と地域を守る防犯パトロールの推進
- ☆助けあい支えあいの中での防災活動の推進

新たなニーズから「活動づくり」

- ☆見守り、連携、情報共有からのニーズを「健康・福祉活動」につなげる取り組み

地域における活動の具体例

- ・あいさつ通り、隣近所との声かけなど
- ・広報紙発行、さまざまな場面でのPR活動など
- ・転入世帯への町会加入の声かけなど
- ・ボランティア講座、地域活動の研修など
- ・さまざまな場面でリーダー・担い手育成など
- ・地区懇談会をはじめ、連携・情報共有のできる場づくりなど
- ・だれもが参画していける環境づくりなど
- ・世代を越えた活動の場づくり、世代間交流教室など
- ・あいさつ・声かけ運動、町会活動など
- ・町会単位のおせっ会・サロン活動、子育てサロンなど
- ・おせっ会・サロン活動、健康体操教室など
- ・閉じこもり・認知症予防、運動、低栄養予防活動など
- ・見守り活動、近隣同士の互いの見守りなど
- ・子育て、障がい者（児）、高齢者支援など
- ・多くの住民参加による防犯パトロールなど
- ・災害に備えた避難・安否確認体制づくりなど
- ・地域の健康福祉課題を具体的な活動へ

地区社協や地区懇談会
の場が

地域の協働の場（プラットフォーム）

地域にかかわるさまざまな個人や団体・組織など、
みんなが一緒になって参画

4 各地区はどんな取り組みをするの？

懇談会を通じて策定された各地区の計画（一部掲載）です。
これから各地区ですすめていく健康福祉活動です。

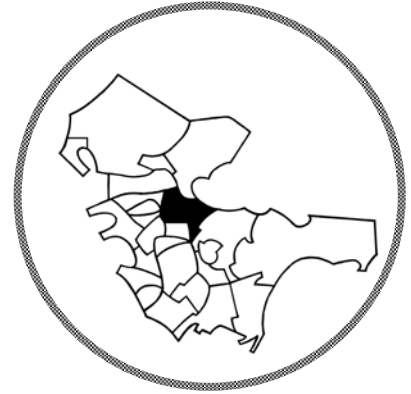
わたしたちの
地区が目指す
健康福祉のまち

課題の発見
解決方法
今後の活動

地区毎の
実情に応じた
行動計画

ゾーン	地区名	頁
中 央	柏 中 央 地 区	29
	新 田 原 地 区	30
	永 楽 台 地 区	31
	富 里 地 区	32
	豊四季台西地区	33
	豊四季台地区	34
	旭 町 地 区	35
	新 富 地 区	36
北 部	高 田 地 区	37
	松 葉 地 区	38
	田 中 地 区	39
	西 原 地 区	40
	富 勢 地 区	41
南 部	土 地 区	42
	藤 心 地 区	43
	光ヶ丘地区	44
	南光ヶ丘地区	45
	酒井根地区	46
	南 部 地 区	47
沼 南	大津ヶ丘地区	48
	風早北部地区	49
	風早南部地区	50
	高 柳 地 区	51
	手 賀 地 区	52

柏中央地区計画



重点目標

- ◎地域活動の大切さを住民に知ってもらい、より多くの人々が地域にかかわりを持つ環境や体制の整備。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎町会役員・民生委員・児童委員（主任児童委員）、柏市民健康づくり推進員などの制度ボランティアが連携を取り、地域のパイプ役となり、さまざまな手法や機会を通じ情報を提供する。
- ◎地域内の行事を整理し充実を図る。
- ◎計画段階から地域の人と一緒に事業を考える。祭りなどでのきっかけや交流を持ち、急がず、ゆっくり「ふれあっていく」取り組みをすすめる。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎地域に無関心な方々を引き入れるため、その必要性を理解してもらうための啓発。
- ◎地域の問題・課題を町会、民生委員・児童委員（主任児童委員）、柏市民健康づくり推進員、消費生活コーディネーターなどへつなげ、連携を深めるしくみをつくる。
- ◎地域内で連携が必要とされる団体との新たな活動の取り組み（消防団・消費生活コーディネーター・学校・青少年健全育成推進協議会の連携、老人クラブなど）

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーの育成や活動のPR。
- ◎隣近所の支えあいによる人間関係をつくるための交流や協働での年間計画づくり。
- ◎意識の啓発やお互いの活動を知る機会をつくる。
- ◎地域住民の意見をより多く反映できる組織づくり。
- ◎地域内で実施しているさまざまな活動評価に基づく事業の推進。
- ◎身近な活動拠点の確保（空家等の借用）。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎現在の活動を充実させる。
- ◎住民の理解と参加を求めるとともに地域健康福祉意識を高める取り組み。
- ◎老人クラブ・若い母親・新住民に地域健康福祉活動への参加を働きかける。
- ◎地域内の人材発掘・育成により人とひととのつながりを深めていく取り組み。

地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	22,813
世	帯 数(世帯)	9,514
4	歳以下人口(人)	1,127
4	歳以下人口比率(%)	4.9
14	歳以下人口(人)	3,081
14	歳以下人口比率(%)	13.5
65	歳以上人口(人)	3,136
高	齢 化 率(%)	13.7

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 4	第 1 回懇談会	8	3	4
05. 9. 28	第 2 回懇談会	17	4	2
05. 10. 31	第 3 回懇談会	13	3	2
06. 2. 8	確 認 会 議	6	2	2

延べ**66**名が
計画づくりに参画！



新田原地区計画

新田原地区健康福祉活動

重点目標

◎隣近所の見守り活動を中心にした「助けあい・支えあい」のしくみづくりによる、心の健康づくりの推進

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎町会毎に個人情報把握し、地域での交流参加を促進につなげていく。
- ◎転入者に対し、町会や地域の情報を市役所窓口で提供してもらう。
- ◎一声運動を推進する。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎活動の連携以前にまず情報の共有化が必要。
- ◎さまざまな団体の意見交換の場をつくっていくことが重要。
- ◎人材バンクなどの設置により、高齢者などの特技を地域活動につなげていくための連携が必要。
- ◎学校と地域が連携して、防犯や交通安全などで、人材や情報を共有することが必要。
- ◎老人会、ふるさと協、地区社協の連携強化が大切。
- ◎個々の団体活動に専念することが先決。その上で隙間を連携しあうことが大切。

活動上の悩みの解決方法

- ◎情報開示の条件づくりを行政に推進してもらう。
- ◎地域住民への積極的なPR活動を展開する。
また、人材バンクの設置などにより、住民のキャリアを活かす地域活動のしくみづくりをすすめる。
- ◎住民活動を活性化させるための既存施設の充実。
- ◎身近な交流場所の確保。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎地域住民の意向を反映させるためのアンケート調査の実施。
- ◎リーダーや担い手発掘のシステムづくり。
- ◎子育て支援や身障者を対象にした取り組み。
- ◎町会全体で参加できる防犯防災対策の推進。
- ◎子どもや高齢者に優しい環境づくり（施設・道路整備）



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人 口 (人)	14,393
世 帯 数 (世帯)	4,541
4 歳以下人口 (人)	504
4 歳以下人口比率 (%)	3.5
14 歳以下人口 (人)	1,750
14 歳以下人口比率 (%)	12.2
65 歳以上人口 (人)	2,708
高 齢 化 率 (%)	18.8

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 8	第 1 回懇談会	11	2	2
05. 9. 7	第 2 回懇談会	22	5	3
05. 10. 26	第 3 回懇談会	20	4	1
06. 1. 18	確 認 会 議	10	2	1

延べ **83** 名が
計画づくりに参画！



永楽台地区計画

永楽台地区健康福祉活動

重点目標

- ◎隣組のような近所づきあいの復活。
- ◎地域に関心を持ち活動に参加してもらえるための働きかけ。
- ◎年齢層を問わず住みよい街づくり。(挨拶・近所づきあい・危険な箇所を改善す

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎家庭内や隣近所のコミュニケーションを大切にする。
- ◎地域内でさまざまな活動をしている個人や団体との場を設け、情報や知識の交換をする。
- ◎子供を通じた活動や若い人達と顔見知りになるための活動を実施する。

よりよい連携の中での活動を目指して

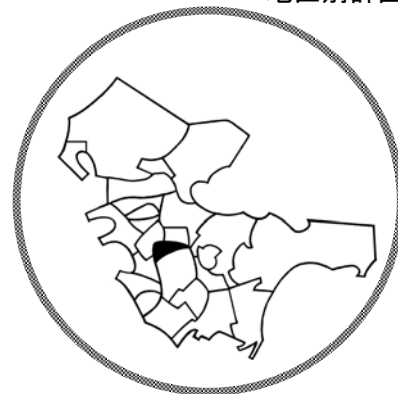
- ◎永楽台地区は、各種事業や行事の推進を通じ、比較的連携協力関係がうまくいっている。さらなる連携・協力関係づくりができるようにするために、お互いの組織リーダーの目配り・気配りが必要。
- ◎高齢者の豊富な知識や経験を生かす活動の展開、ある年代だけの行事ではなく幅広い分野と活動を通じて連携を図る。
- ◎連携を図る上で、何処にどんな人や組織があり活動しているのかを知り、参加できる土壌づくりをすすめる、「人財バンク的」なものを地区社協や町会で蓄積していく。

活動上の悩みの解決方法

- ◎地域活動を豊かにしていくために、各種事業を推進するためのリーダーや担い手は不可欠であり、人財の発掘や育成への取り組みに努める。
- ◎身近な地域での活動を充実する。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎世代を超えお互い尊重して暮らすという気持ちを持つ仕組み。
- ◎地域で暮らすだれもが参加できる環境や条件を整備する取り組み。
- ◎人とひととの横のつながりを大切にしていける取り組み。
- ◎豊かな人財を活用し、問題解決に向け支援ができる取り組み。
- ◎地域で暮らす人が融合できるような交流の場を設ける取り組み



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	11,713
世	帯 数(世帯)	4,267
4	歳以下人口(人)	510
4	歳以下人口比率(%)	4.4
14	歳以下人口(人)	1,748
14	歳以下人口比率(%)	14.9
65	歳以上人口(人)	2,066
高	齢 化 率(%)	17.6

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 29	第 1 回懇談会	10	2	4
05. 10. 12	第 2 回懇談会	25	3	3
05. 11. 12	第 3 回懇談会	24	4	2
06. 2. 22	確 認 会 議	9	1	2

延べ89名が

計画づくりに参画！



富里地区計画

富里地区健康福祉活動

重点目標

- ◎若い人も高齢者も多い富里の特色を生かした三世代交流の促進。
- ◎町会に加入せず地域活動に無関心な人への町会加入促進対策の強化。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎町会の主催事業を増やし、住民同士の交流を図ると共に、学校や子供会等へ働きかけ子供達の参加を積極的に促進し、三世代の交流を図る。又地道なPR活動を続けると同時に、人材の育成や発掘に努めて

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎連携・協力するためには、あきらめずに積極的に働きかける必要がある。
- また、学校との連携は、今行っている関わりをもう少し工夫すれば、もっと良い関係が築けると思われ

活動上の悩みの解決方法

- ◎個人情報情報は情報を収集する側（主催者側）がもう一度その取り扱いについて考え直し、信頼されるようになる事も必要である。
- ◎役員等の担い手の不足については、一人で何役も担うのではなくみんなで分担して、役員の負担を減らすと共に、活動者の裾野の拡大に努める。
- ◎地域と市社協・行政の意見のズレをなくすために、しっかりとした現状把握をする。

安心して住み続けられる地区を目指して

【良い点】

- ◎既存の活動の充実を図る。

【問題点】

- ◎マンション入居時の加入を徹底し行政が転入時に町会加入を後押しする。
- ◎地域活動への参加を積極的にPRし、若い世代の町会加入を促進する。
- ◎拠点の活用・整備をすすめると共に行政側の意識の転換。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	29,277
世	帯 数(世帯)	6,863
4	歳以下人口(人)	1,643
4	歳以下人口比率(%)	5.6
14	歳以下人口(人)	3,880
14	歳以下人口比率(%)	13.3
65	歳以上人口(人)	4,320
高	齢 化 率(%)	14.8

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 29	第 1 回懇談会	11	3	2
05. 8. 29	第 2 回懇談会	18	4	1
05. 10. 8	第 3 回懇談会	15	4	2
05. 12. 10	確 認 会 議	11	3	2

延べ**76**名が
計画づくりに参画！



豊四季台西地区計画



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人 口 (人)	21, 107
世 帯 数 (世帯)	7, 963
4 歳以下人口 (人)	985
4 歳以下人口比率 (%)	4. 7
14 歳以下人口 (人)	2, 730
14 歳以下人口比率 (%)	12. 9
65 歳以上人口 (人)	3, 303
高 齢 化 率 (%)	15. 6

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 9. 8	第 1 回懇談会	8	3	1
05. 11. 9	第 2 回懇談会	16	3	2
05. 12. 6	第 3 回懇談会	18	4	2
06. 2. 13	確 認 会 議	11	1	1

延べ**70**名が
計画づくりに参画！



重点目標

- ◎あいさつ・声かけがしあえる地域にする。
- ◎話し合いの場をつくる。
- ◎人材の育成。
- ◎常に新たな活動の立上げに挑戦する。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎「必要なときに助けあえるような、子どもから障がい者、高齢者まで、多くの人が互いに思いやれる地域。」「子どもにふるさとだと思ってもらえるような地域」にするために。
- ◎回覧をまわすときに一声かけるなど小さなことから始める。
- ◎あいさつ・声かけができるようにする。
- ◎子どもは地域 みんなで育てるのだという大人の意識変革。
- ◎地域の幅広い活動者が対話できるような場の設定。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎お互いの活動内容を知るために、活動の場にお互いに招きあったり、互いの活動を情報交換する場を設定する。
- ◎町会を中心に地域活動をPRする。
- ◎子どもが夢を持ち、健全に育てられるように、幅広い世代間の交流を進める。

活動上の悩みの解決方法

- ◎挨拶を通して向こう三軒両隣の関係づくりをすることで、日頃の活動がやりやすくなる。
- ◎日頃の活動を通じて、早めに人材発掘をしていく。それぞれの団体で、リーダーの役割を分担していくことで、後継者の育成をしていく。
- ◎新たな活動を始めることより、現在の活動をお互いに知り合い、互いの活動がより効果的に進められるようにする。
- ◎困難な相談を受けたときに、行政などの専門分野などに抱え込まずつなげる。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎連携を生むための会合。
- ◎周知の徹底
- ◎後継者を育成する。
- ◎回覧と一緒の声かけ・小さな近隣への気配りからはじめる。
- ◎顔見知りになりあいさつをしあうこと。
- ◎地区社協活動の見直し。
- ◎防犯防災の取り組み。

豊四季台地区計画

豊四季台地区健康福祉活動

重点目標

- ◎知り合いの輪を広げて、みんなが多く希望している活動に取り組んでいく。
- ◎課題としては、一切参加しない人へのつながりをいかにするか。
- ◎日常生活で困ったら（緊急時24時間体制）気軽に相談できる仕組みをつくる。
- ◎みんなが、話し合いや交流の場を持ち、災害時等困ったときに助け合えるしくみづくり。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎身近なところから挨拶を実施し、輪を広げ行事への参加を促す。
- ◎特に三世代がかかわれるように事業をすすめる。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎まず、さまざまな団体との意見交換の場を設ける。
- ◎各々の役割を理解する。
- ◎新しい協力者が参加できる環境をつくる。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダー確保のため、他の団体との意見交換の場を設定する。
- ◎新たな担い手の発掘と、活動しやすい雰囲気づくりと環境整備。小さいころから担い手を育てていく活動を考える。
- ◎理解を深めるため、PR方法を考える。
- ◎個人情報の取り扱いについて明確な方針を行政に求める。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎ニーズキャッチする取り組み。
- ◎無関心な人へ関心を高める取り組み。
- ◎ふれあいの場と時間をつくる取り組み。
- ◎気軽に相談できる人を持つ取り組み。
- ◎閉じこもりを防ぐ取り組み。
- ◎地区社協をPRする取り組み。
- ◎団結し和やかに物事をする取り組み。
- ◎環境の変化に対応できない人を支えるしくみづくり。



地区データ

平成17年4月1日現在

人	口(人)	8,032
世	帯 数(世帯)	4,756
4	歳以下人口(人)	216
4	歳以下人口比率(%)	2.7
14	歳以下人口(人)	656
14	歳以下人口比率(%)	8.2
65	歳以上人口(人)	2,341
高	齢 化 率(%)	29.1

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 28	第1回懇談会	14	2	3
05. 9. 20	第2回懇談会	26	5	1
05. 10. 6	第3回懇談会	26	4	1
06. 2. 9	確 認 会 議	11	1	2

延べ**96**名が
計画づくりに参画！



旭町地区計画

旭町地区健康福祉活動

重点目標

- ◎「助けあう意識を育む」、「守りあう実践をすすめる」、「美しい環境づくりをすすめる」、この3つの観点から実践をすすめる。
- ◎世代を超えた連携の場をつくる。
- ◎各団体の事業がより多くの住民に広がるよう活動のPRをする。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎幅広い世代が、あいさつできる関係が生まれるようになるためのきっかけづくりを、地域の拠点を活用しながらすすめていく。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎意見が言い合える場を持つことで連携のアイデアを生み出す。
- ◎現在の活動に負担がかからないように、単発ものではなく、年間を通じた現在の活動を一緒に他の団体と行うことで交流の場をつくる。
- ◎活動者だけでなく、地域にあるさまざまな機関も巻き込んでいく。

活動上の悩みの解決方法

- ◎悩みを含め、情報を共有し、リーダー同士が高めあえる関係づくり。
- ◎楽しい活動の雰囲気づくりを意識する。
- ◎活動にプラスになり負担にならないような連携のとり方を考える。
- ◎すぐ解決方法が見つからないことも多い。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎小学校と地域が情報を共有する場をつくることで、連携をすすめる。
- ◎小学校と老人クラブが現在進めている花を育てる活動を広げる《美しい地域》。
- ◎災害マップ作り《助けあう地域》。
- ◎子どもを見守る目を地域にたくさんつくる《守りあう地域》。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	10,932
世	帯 数(世帯)	6,024
4	歳以下人口(人)	634
4	歳以下人口比率(%)	5.8
14	歳以下人口(人)	1,577
14	歳以下人口比率(%)	14.4
65	歳以上人口(人)	1,311
高	齢 化 率(%)	12.0

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 10	第 1 回懇談会	8	2	3
05. 9. 26	第 2 回懇談会	17	3	1
05. 11. 29	第 3 回懇談会	12	3	3
06. 1. 23	確 認 会 議	8	2	2

延べ**64**名が
計画づくりに参画！



新富地区計画

新富地区健康福祉活動

重点目標

- ◎リーダーや担い手の確保のための活動。
- ◎各組織グループの連携のための集まりや活動。
- ◎平常時や災害時にも対応できる安心安全な地域を目指す防犯活動。
- ◎情報が隅々までいきわたる方策の検討と体制づくり。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎町会の必要性をアピールしていく。
- ◎地域・学校・家庭の役割を明確にする。
- ◎主に子供を通じた活動を展開していく。
- ◎色々な行事を通じて交流を図る。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎活動は、町会単位を中心とし、さらに細かい班単位を中心として推進する。
- ◎新富地区内で活動している組織が、何でも気軽に話し合い・連携ができる場をつくる。
- ◎新富地区内で活動している組織が、その目的・役割を明確に持ち、個々の活動を充実させる。
- ◎組織間の情報の共有を図ると共に、住民へ発信して知る・理解する・活動参加へとつなげる。そのための人的な養成に取り組む。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーや担い手
各役員や担い手の役割を明確にし、役割分担をする
と共に段階的に育てていくなどの仕組みづくり。
- ◎活動内容
小さいころの思い出づくりや大人になったときに次世代に伝えていく取り組み。
- ◎拠点
学校やふるさと会館など身近な現存施設の活用。気軽に利用できるバスの導入を働きかける。
- ◎情報
組織同士のつながりや連絡網の整備、活動を広く知らす広報（回覧などによる）、啓発の充実。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎意見交換の場を設ける。行事の評価により次の事業へ反映させるようにする。子供との事業などの協働活動を通じてグループ間の連携強化。
- ◎町会に入りやすい環境をつくるとともに、役員の負担を軽減する。（部員の巻き込み方の検討。）
- ◎活動の担い手を増やすために情報を末端まで提供する。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	7,348
世	帯 数(世帯)	6,498
4	歳以下人口(人)	343
4	歳以下人口比率(%)	4.7
14	歳以下人口(人)	1,011
14	歳以下人口比率(%)	13.8
65	歳以上人口(人)	1,062
高	齢 化 率(%)	14.5

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 29	第 1 回懇談会	12	2	4
05. 9. 3	第 2 回懇談会	28	3	4
05. 9. 26	第 3 回懇談会	24	2	3
06. 2. 23	確 認 会 議	9	1	5

延べ**97**名が
計画づくりに参画！



高田地区計画

高田地区健康福祉活動

重点目標

- ◎あいさつ、声をかけ合うことの積み重ねを行い、日頃からの関係づくり。
- ◎地域ぐるみで子育て家庭を支援する活動。
- ◎介護予防の取り組みや要援護者を把握する体制づくり。
- ◎リーダー、担い手不足を解消するための取り組み。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎あいさつ、声をかけ合うことの積み重ねを行い、日頃から関係をつくっていく。
- ◎各世代が集まって話し合う「場」を多くつくる。

よりよい連携の中での活動を目指して

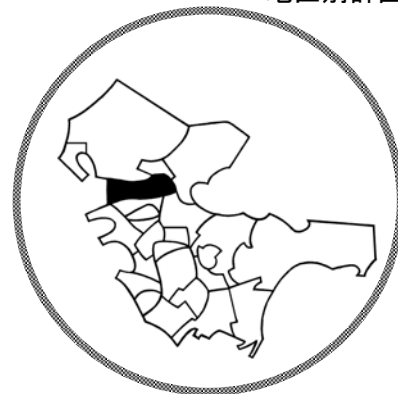
- ◎各世代や地域活動している団体が集まって、それぞれの活動を紹介したり、情報交換を通じて、団体や個人の相互連携と協力の“きっかけ”をつくっていく。
- ◎若い世代や学校関係者も交えて、地域の懇談会を継続して行う。

活動上の悩みの解決方法

- ◎役員、リーダーの負担を軽減するよう周りがきちんとフォローする。リーダーは後継者を育てていく工夫を行う。
- ◎活動内容をPR（説明）する機会を設け、まずは活動を知ってもらう。そこから人の繋がりを生み、担い手の裾野を広げる。
- ◎小さなところでよいので活動場所、拠点を確保する。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎地域の組織力を活かして、地域環境がよくなるよう行政等へ要請するとともに、住民参加の地域見守り活動の取り組みを行う。
- ◎だれもが参加できる井戸端会議などの情報交換する場を設け、地域情報の共有化と活動の拡充を図っていく。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	16,166
世	帯 数(世帯)	5,800
4	歳以下人口(人)	794
4	歳以下人口比率(%)	4.9
14	歳以下人口(人)	2,428
14	歳以下人口比率(%)	15.0
65	歳以上人口(人)	2,095
高	齢 化 率(%)	13.0

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 27	第 1 回懇談会	9	3	3
05. 9. 17	第 2 回懇談会	18	3	1
05. 12. 10	第 3 回懇談会	17	3	1
06. 2. 19	確 認 会 議	9	1	1

延べ**69**名が
計画づくりに参画！



松葉地区計画

松葉地区健康福祉活動

重点目標

- ◎あいさつ運動、声かけ運動への取り組み。
- ◎子育て家庭や高齢者が気軽に集える場の取り組み。
- ◎各種団体が情報交換できる機会の取り組み。特に子ども関係との連携。
- ◎地域の担い手を育てる取り組み。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎あいさつや声かけを交わし、住民同士のつながりを持っていく。
- ◎地域活動の情報を発信し、情熱を持って積極的な働きかけを行う。
- ◎小地域単位でだれでも集える場を設け、近隣の輪を広げていく。
- ◎個人の自立を尊重しつつ、いざというときのサポート体制を構築する。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎学校、地域に携わる団体が相互連携、協力体制が図られるよう情報・意見交換する機会を設け、より良い関係の実績を積み重ねていく。(地域全体、小地域)
- ◎関連機関に相談したり、活動を宣伝しながら、協力と連携の輪を広げていく。
- ◎中期的な計画づくり、取り組みができるよう、関係する委員の任期を見直していく。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーや担い手は、任期を見直し、後任を育てる、人材を養成する取り組みを行い、また、若い世代が入れるポストもつくっていく。
- ◎各自が負担とならないよう役割の分散化を図っていく。
- ◎活動は、住民の意識を高揚する機会(学習)や活動の必要性を理解してもらう機会を設け、継続的な活動ができる環境を整えていく。また、楽しく活動できるよう工夫を凝らす。
- ◎頑張っている人へは表彰や評価していく。
- ◎だれもが参加しやすい、地域に行き届いた身近な小活動を展開する。
- ◎身近に相談できる環境(拠点)を整備する。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎地域内の団体と連携を図る。類似事業は整理していく。
- ◎エンジョイパトロールをPRし、活動者は積極的にあいさつを交わす。
- ◎マナー(特にペット)の特集を組んだ広報を行う。
- ◎町会役員や担い手などの任期を見直し、事業の継続性を図る。
- ◎子どもたちを巻き込んだ世代間の活動を展開する。



地区データ

平成17年4月1日現在

人	口(人)	12,993
世	帯 数(世帯)	4,648
4	歳以下人口(人)	408
4	歳以下人口比率(%)	3.1
14	歳以下人口(人)	1,503
14	歳以下人口比率(%)	11.6
65	歳以上人口(人)	1,468
高	齢 化 率(%)	11.3

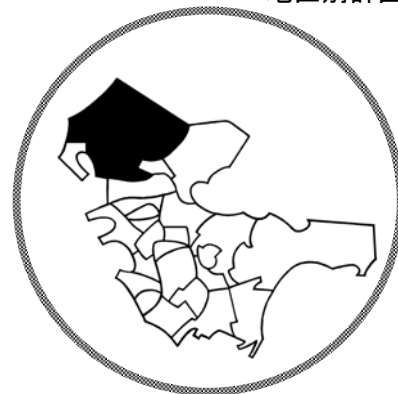
計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 9. 10	第1回懇談会	11	2	3
05. 9. 24	第2回懇談会	25	4	1
05. 11. 5	第3回懇談会	15	4	1
06. 2. 25	確 認 会 議	7	1	1

延べ**75**名が
計画づくりに参画!



田中地区計画



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	31,278
世	帯 数(世帯)	8,685
4 歳以下人口(人)		1,372
4 歳以下人口比率(%)		4.4
14 歳以下人口(人)		4,894
14 歳以下人口比率(%)		15.6
65 歳以上人口(人)		4,230
高 齢 化 率(%)		13.5

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 6	第 1 回懇談会	9	3	5
05. 9. 17	第 2 回懇談会	22	3	3
05. 11. 12	第 3 回懇談会	18	3	1
06. 2. 12	確 認 会 議	7	1	2

延べ**77**名が
計画づくりに参画！



重点目標

- ◎役職の分散化や役割分担をしながら、リーダーや担い手を育てていく。
- ◎地区全体が連帯感をもって取り組むことができる「防犯活動」や「あいさつ運動」の実施。
- ◎地区全域活動の拠点の分散化。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎防犯パトロールや犬の散歩等を通じ、あいさつ運動をすること。
- ◎趣味や生きがいなどを通じて地域に潜在している人（特に男性）の活躍の場づくり。
- ◎行政やアパートのオーナーに協力してもらい、町会の加入を促していくこと。
- ◎町会での季節のイベント等を実施し、小さなことから長続きさせること。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎情報を共有化しながら、密に連携していくために、地域活動に係る組織・団体が集って、「懇談する場づくり」をする。また、その懇談で情報共有し、共通認識を持ったものが、地域住民にも伝わるしくみづくりをしていくこと。
- ◎団体の代表者が、町会・自治会の会議に出席をして、意見交換すること。

活動上の悩みの解決方法

- ◎人とのつながり、経験豊富な退職した人への声かけ、研修などから、リーダーを見つけ、育てていくこと。
- ◎声かけ、活動日（土・日）の工夫、持ち回りなどで担い手を確保し、興味をもってもらえるよう話し合いの場をつくったり、役割の分散化をすること。
- ◎住民の方に、地域活動を知ってもらい（PR）、参加しやすい雰囲気・声かけをしていくこと。
- ◎田中地区は広いので、分散して活動してみるの也需要。

安心して住み続けられる地区を目指して

- 【良いところ】子どもからお年寄りまで相互交流できる町会単位の伝統行事を今後も残していくこと。／子育てや健康づくりに良い自然環境を守っていくこと。
- 【問題なところ】子どもが自由にのびのびと育っていけるような環境づくり。／町会単位の活動の活性化をしながら、学校をはじめ、地域での横のつながりをつくっていくための出会いの場や話し合いの場づくり。／新・旧住民のコミュニケーションと融和。

西原地区計画

西原地区健康福祉活動

重点目標

- ◎安全・安心・快適なまちづくりの推進。
- ◎協働・連携の強化。
- ◎身近な地域（町会・自治会単位）における健康福祉活動の推進。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎あらゆる世代のふれあいの場や身近な相談の場をつくること。
- ◎一声・あいさつ運動。
- ◎町会未加入者への働きかけと参加しやすい興味のわく行事の実施。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎世代や障がいを問わず、一緒に活動していけるような取り組みができるよう、町会単位や地区内のあらゆる関係組織・団体が集って、意見交換の場や交流をしながら、「横のつながり」をもっていくこと。

活動上の悩みの解決方法

- ◎地区内のあらゆる組織・団体との連携の中で人づくり（人材育成）をしていくこと。
- ◎参加する側、主催する側の壁をなくし、「楽しい」場づくりをしていくこと。
- ◎活動拠点や活動の見直しをして、よりよい活動を実施していくこと。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎地域全体で、防犯（エンジョイパトロールなど）や防災、環境美化活動をしていくこと。
- ◎学校等との連携を蜜にして、三世代の交流をしながら、子ども達にとって、「ふるさとを思い出せる」ような行事を残していくこと。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	16,849
世	帯 数(世帯)	5,206
4	歳以下人口(人)	726
4	歳以下人口比率(%)	4.3
14	歳以下人口(人)	2,348
14	歳以下人口比率(%)	13.9
65	歳以上人口(人)	2,821
高	齢 化 率(%)	16.7

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
03. 8. 31	第 1 回懇談会	59	3	8
04. 9. 25	第 2 回懇談会	70	2	5
05. 3. 12	第 3 回懇談会	40	2	2
06. 3. 19	確 認 会 議	10	1	1

延べ**203**名が
計画づくりに参画！



富勢地区計画

富勢地区健康福祉活動

重点目標

◎従来からの枠をこえた地域連携が必要になってくるため、だれもが集まれるような地域場の提供とニーズの把握を徹底する。

住民主体の地域づくりを目指して

◎子供からお年寄りまで地域の方と安心してコミュニケーションがとれ、だれにでも一様に地域の情報が受けられること。

よりよい連携の中での活動を目指して

◎地区内にあるあらゆる人や社会資源との連携・協力ができるよう、交流や懇談をし、社会資源の活用をしていくことで、よりよい連携・協力関係づくりをしていく。

活動上の悩みの解決方法

◎ニーズに対応できる情報ネットワークづくりに努め、新しい人材育成に時間をかけ、じっくり学ぼうづくりからはじめる（見学から手伝いへと徐々に移行していく）。また、活動が円滑に行えるよう関係機関に必要な働きかけを行っていく。

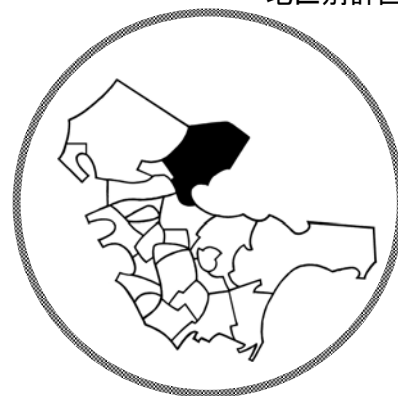
安心して住み続けられる地区を目指して

【良い点】

◎さらに関係強化に努力し、地区社協のPR活動をする。

【問題点】

◎連携をとおした誰もが参加できる場をつくり、既存の活動内容を再検討し、年間計画を早期に周知していく。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	25,106
世	帯 数(世帯)	8,585
4	歳以下人口(人)	1,142
4	歳以下人口比率(%)	4.5
14	歳以下人口(人)	3,265
14	歳以下人口比率(%)	13.0
65	歳以上人口(人)	3,843
高	齢 化 率(%)	15.3

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 26	第 1 回懇談会	10	3	4
05. 8. 30	第 2 回懇談会	30	5	2
05. 9. 29	第 3 回懇談会	25	4	2
05. 10. 27	確 認 会 議	10	2	2

延べ**99**名が
計画づくりに参画！



土地地区計画

土地地区健康福祉活動

重点目標

- ◎地域活動に無関心な住民を巻き込み、参加してもらうための取り組み（意識調査も一方法）。
- ◎町会など地区で活躍できる人材を発掘し、育成する取り組み。
- ◎防災活動をきっかけに、住民同士が交流できる取り組み。
- ◎成人病予防・介護予防など自助を促すための取り組み。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎学校との協働によって子どもを見守る。
- ◎住民が、おしゃべりやコミュニケーションできる場をつくる。
- ◎定年前の男性など潜在的な住民を意識改革し、地域を知ることをととし活動に参画させる。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎これまでの手伝い的な連携から、懇談によって相手を知り情報を共有化して、本来の意味での連携を図る。そのためには、各団体や関係機関、同じ団体同士が集まることが必要。また、連携するきっかけとして、各団体の関係図があると便利。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーや担い手が活動しやすい環境を整備する（仕事の分散化、活動マニュアルの作成など）。
- ◎メンバーが目的を理解したうえで活動することが肝要。
- ◎町会同士が連携し町会会館を有効活用する。
- ◎個人情報保護対策として、住民側から情報を寄せてもらう。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎日ごろの挨拶や住民同士の交流をきっかけに、お互いが顔の見える関係をつくる。
- ◎皆の意見が反映されるような民主的なあり方を通じ、世代間の交流や多くの住民が参加できる環境をつくる。
- ◎町会には、先見性を備えたリーダーを配置する。また、町会内の役割の分散化を図り、隣組を復活させ班長の目が届きやすくする。
- ◎個々に活動しているサークル団体が交流し輪を広げる。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	22,309
世	帯 数(世帯)	7,325
4	歳以下人口(人)	945
4	歳以下人口比率(%)	4.2
14	歳以下人口(人)	3,098
14	歳以下人口比率(%)	13.9
65	歳以上人口(人)	3,836
高	齢 化 率(%)	17.2

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 29	第 1 回懇談会	13	3	3
05. 9. 30	第 2 回懇談会	33	4	2
05. 11. 24	第 3 回懇談会	24	4	2
06. 1. 18	確 認 会 議	9	2	3

延べ**102**名が
計画づくりに参画！



藤心地区計画

藤心地区健康福祉活動

重点目標

- ◎地区社協やふるさと協議会活動と町会が一体となった、地域運営体制をつくる。
- ◎隣近所のつながりを深めるように努める。
- ◎「住民みんながリーダー」をスローガンに、リーダーづくりをすすめる。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎助けあい・支えあいの意識を高めていくための交流機会を拡充するとともに、町会や地域団体の役員に参加できるしくみや環境づくりが重要。
- ◎地域づくりの理想や考え方の違う世代を結びつけるために、学校や PTA との連携を深める取り組みも必要。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎地域住民に「理解」と「参加」、そして「協力」を得るため、地域の団体活動を積極的に PR すること。
- ◎団体同士の懇談の機会を設けること。
- ◎祭りやイベントの際に、広く団体やグループを巻き込むこと。
- ◎学校との連携により、三世代交流事業をすすめること。
- ◎町会を中心とした個人や団体の連絡調整のしくみづくりをすすめること。

活動上の悩みの解決方法

- ◎町会や市による個人情報保護条例についての情報提供。また、信頼関係を築くための積極的な交流機会づくり。
- ◎町会や団体の「推薦」と粘り強い「説得」で人材を確保する。
- ◎町会を基本に、地域活動を展開する。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎リーダーや担い手づくりのきっかけとして、地域の学習や地域情報を提供する。
- ◎地域の連帯感を醸成するため、若い世代や子ども達との交流の場をつくる。
- ◎地区社協事業への積極的な住民参加を促進する。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	15,102
世	帯 数(世帯)	4,124
4	歳以下人口(人)	604
4	歳以下人口比率(%)	4.0
14	歳以下人口(人)	1,963
14	歳以下人口比率(%)	13.0
65	歳以上人口(人)	2,766
高	齢 化 率(%)	18.3

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 31	第 1 回懇談会	12	3	4
05. 9. 11	第 2 回懇談会	27	3	4
05. 10. 23	第 3 回懇談会	23	4	1
06. 1. 22	確 認 会 議	13	1	1

延べ**96**名が

計画づくりに参画！



光ヶ丘地区計画

光ヶ丘地区健康福祉活動

重点目標

- ◎町会未加入者への加入促進活動と加入させるための魅力ある活動の実践。
- ◎防災の観点を踏まえた弱者の把握と町会による情報管理。
- ◎子どもたちの登下校の見守りを含めた防犯活動。
- ◎定年退職者が地域活動できるしくみづくり。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎住民同士が意識して声をかける。
- ◎住民同士が交流を図れるような地域活動やイベントを企画する。
- ◎住民意識を変えるための講座を開催し、ボランティア意識を醸成する。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎地域内の各団体が集い、協力関係を築けるよう話し合う。
- ◎地域内の関連性がある団体同士が、同じテーブルについて情報交換する。
- ◎町会が、役員を含め他町会と交流することはもちろん、地区社協の事業に参加したり、地域内の活動と連携できるようなしくみをつくる。
- ◎幼稚園や保育園との交流をはじめる。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーの役割を一人に集中させず、何人かに分散させる。
- ◎楽しい活動状況を住民に見てもらい、参加しやすい雰囲気をつくる。
- ◎住民に理解を得られるよう、個人情報保護の対策をおこなう。
- ◎掲示板や回覧板を通じ、地域活動をもっとPRする。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎住民同士がお互いに知り合えるきっかけづくり（小単位での行事やお茶飲み会の復活、若い人が参加するための工夫）。
- ◎町会未加入者に対する加入促進の活動。
- ◎特定の人が過重な負担を負わないよう、役割を分散化させる。
- ◎地区社協のメンバーに加わるよう、障害者団体へ呼びかける。



地区データ

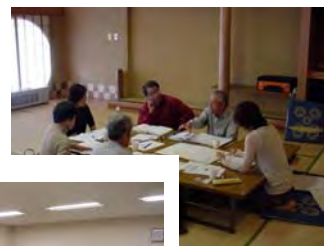
平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	17,777
世	帯 数(世帯)	5,873
4	歳以下人口(人)	779
4	歳以下人口比率(%)	4.4
14	歳以下人口(人)	2,545
14	歳以下人口比率(%)	14.3
65	歳以上人口(人)	3,006
高	齢 化 率(%)	16.9

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 24	第 1 回懇談会	10	4	2
05. 9. 28	第 2 回懇談会	22	4	0
05. 12. 26	第 3 回懇談会	20	4	3
06. 2. 10	確 認 会 議	7	2	2

延べ**80**名が
計画づくりに参画！



南光ヶ丘地区計画

南光ヶ丘地区健康福祉活動

重点目標

- ◎大人から、挨拶と声かけ活動（運動）を行う。
- ◎次の担い手である団塊世代の参加促進と、後継者の育成を行い、だれもが地域活動できるようしくみづくりをし、小さな活動から裾野を広げていく。
- ◎気軽に情報交換ができる機会を設け、地域で活動している生活情報を共有し合い、地区全体の地域活動における意識の向上を図る。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◇あいさつ運動を行う。
- ◇潜在的人材（おもに男性）の活動の場づくり。
- ◇住民同士が交流を図って顔見知りになり、小さなことから協力しあえる関係を築いていく。

よりよい連携の中での活動を目指して

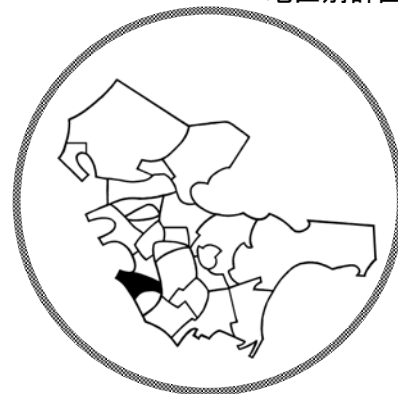
- ◇地域活動にかかわるそれぞれの団体が集って話し合いの場づくりをする。町会をこえた交流も必要。
- ◇地域で把握している情報を共有しあい、それぞれの団体が共通認識をもつことによって、より多くの地域住民に対して情報提供を行う。ひいては広く人材を発掘し、ボランティアの裾野を広げる。

活動上の悩みの解決方法

- ◇リーダー（役員）の期間・役割を明確にするとともに、負担を一人に集中させず、何人かに分散させる。また時間をかけて広く人材を見つけ、育てていく。
- ◇参加しやすい雰囲気をつくり、活動日や時間が短くても気軽に活動ができるようにする。
- ◇アトムの会等を参考に地域でできることをみんなで考え、小さなことから行ってみる。
- ◇住民同士、地域活動情報を共有し、その地域にあった活動を行う。
- ◇掲示板や回覧板をより活用し、地域活動をPRする。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◇地区社協や町会等の地域活動の活性化を行いながら、地域での横のつながりをつくっていくための出合いの場や話し合いの場づくりを行う。
- ◇子どもから高齢者まで参加できる行事を取り入れながら、地域活動情報の発信を行う。ひいては、団塊世代の特技等を生かせる場づくりを行う。
- ◇地域活動者の裾野を広げていくため、若い世代との懇談の場と地域行事参加の促進。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	12,947
世	帯 数(世帯)	4,389
4	歳以下人口(人)	505
4	歳以下人口比率(%)	3.9
14	歳以下人口(人)	1,688
14	歳以下人口比率(%)	13.0
65	歳以上人口(人)	2,460
高	齢 化 率(%)	19.0

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 20	第 1 回懇談会	9	3	3
05. 11. 23	第 2 回懇談会	28	6	2
06. 1. 29	第 3 回懇談会	20	3	3
06. 3. 12	確 認 会 議	6	2	3

延べ**88**名が
計画づくりに参画！



酒井根地区計画

酒井根地区健康福祉活動

重点目標

- ◎町会活動への意識啓発と参加促進。
- ◎防災意識の向上と活動の推進。
- ◎高齢者と小中学生を中心とした世代間交流の場づくり。
- ◎あいさつ運動などによる隣近所の交流の場づくり。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎仲間づくり・交流の場づくり。
- ◎協働のしくみづくり。
- ◎防災活動による連帯感の醸成。
- ◎情報の共有による計画的な活動の推進。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎昔話や遊びなどを通じた地域と学校の連携。
- ◎地域住民の交流機会の拡充と声かけによる行事参加への勧誘。
- ◎活動団体の情報交換の場づくり。

活動上の悩みの解決方法

- ◎個人情報不足は、活動者自身の意識や行動で補う。
- ◎担い手不足は、活動を自分たちが楽しめるものにし、自信を持って友人や参加者への声かけができる環境をつくる。
- ◎町会加入の促進は、班長による情報提供と意識啓発で対応。
- ◎活動の活性化を図るため、マンネリ化した活動や地区社協事業の見直しを行う。
- ◎地区社協による、ふる協事務所の共有化を図り、拠点不足を補う。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎連携や協働という意識を持った地域内の活動組織の見直し。
- ◎転入者を積極的に巻き込んだ交流の場づくり。
- ◎学校を中心とした世代間交流の展開。
- ◎コーディネーターの養成と近隣センターの活用。
- ◎地域活動者による懇談の場づくり。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	12,105
世	帯 数(世帯)	3,562
4	歳以下人口(人)	545
4	歳以下人口比率(%)	4.5
14	歳以下人口(人)	1,699
14	歳以下人口比率(%)	14
65	歳以上人口(人)	2,078
高	齢 化 率(%)	17.2

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 5	第 1 回懇談会	12	3	2
05. 9. 18	第 2 回懇談会	18	5	1
05. 11. 30	第 3 回懇談会	21	4	1
06. 2. 22	確 認 会 議	9	1	1

延べ **78** 名が
計画づくりに参画！



南部地区計画

南部地区健康福祉活動

重点目標

- ◎全町会・自治会での支えあい活動の推進。
- ◎地区、町会・自治会単位での福祉懇談会の継続。
- ◎地区ボランティアネットワークの拡大・充

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎町会・自治会単位のボランティア活動の推進。
- ◎あらゆる世代の方が地域活動に参加でき、交流を図れる環境をつくる。
- ◎あいさつ運動をきっかけに、住民同士の心の交流を図り、地域での支えあい活動につなげられるような信頼関係の構築。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎町会が核となり、世代の枠を越えた住民同士の交流が図れる場を設ける。また、関係団体が集まり、互いに意見や情報交換ができる体制をつくり、横の連携を図る。

活動上の悩みの解決方法

- ◎誰もが地域活動に参加でき、継続した活動ができるような体制をつくる。
- ◎地区懇談会の継続と内容の充実を図る。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎健康福祉と環境の充実を図り、これからの少子高齢社会に向け、心身の健康づくりや介護予防に取り組む。また、地域全体で防犯・防災対策に取り組む。
- ◎学校やPTAと連携を図り、地域ぐるみで児童の成長を助ける。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	21,072
世	帯 数(世帯)	7,502
4	歳以下人口(人)	918
4	歳以下人口比率(%)	4.4
14	歳以下人口(人)	2,156
14	歳以下人口比率(%)	14.6
65	歳以上人口(人)	3,068
高	齢 化 率(%)	14.6

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
03. 6. 26	第 1 回懇談会	56	3	6
03. 10. 5	第 2 回懇談会	50	1	4
04. 4. 4	第 3 回懇談会	23	1	4
04. 6. 25	第 4 回懇談会	52	1	4
05. 3. 14	第 5 回懇談会	50	2	4
06. 3. 14	確 認 会 議	4	1	0

延べ**266**名が
計画づくりに参画！



大津ヶ丘地区計画

大津ヶ丘地区健康福祉活動

重点目標

- ◎気軽にあいさつ、声かけ活動を行う。
- ◎団塊世代の参加を呼びかけ、学校・教育関係者とも連携充実を行う。
- ◎担い手、後継者の育成を行う。
- ◎気軽に集える拠点をつくる。
- ◎住民の手づくりによる地域活動の拡充を図る。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎お互いの顔が見えるようあいさつを交わす。
- ◎多くがリーダーシップとれるよう、人を育てる取り組みを行う。
- ◎交流や地域をよく知る機会を設けて、情報の共有、仲間づくりを増やし育てる。
- ◎何事にも楽しく取り組み、笑顔の輪を広げていく。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎若い世代から高齢者まで多くの団体・個人が参加し、相互連携できるよう情報交換や意見交換する機会をつくる。情報の共有化。
- ◎児童との関わりを増やすため、学校や PTA 等と情報交換、意見交換する場づくりが必要である。

活動上の悩みの解決方法

- ◎学習する機会、交流する機会を多くつくり、人の繋がりのなかからリーダーや担い手を育てていく。活動 P R もますます充実させていく。
- ◎事務の簡素化を図り、負担を軽減する。
- ◎日頃から集える拠点づくりを整備し、その資金も確保する。
- ◎一人で悩まず、相談しあえる仲間づくりと仕組みづくり（懇談）を行う。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎子ども参加の行事を取り入れ、PTA 等の若い世代と交流や連携する機会をつくる。
- ◎団塊世代の活動の場、趣味や特技を活かせる場所づくりを行う。
- ◎役員終了後も参加できる場、お茶飲みできる場を設けていく。
- ◎福祉を超えた分野で活動する住民も誘って、福祉の裾野を広げていく。そのための活動や声かけを積極的に行う。
- ◎アパート居住者、賃貸集合住宅の福祉対象者及びその支援者の体制づくりを行い、地域のネットワーク化をすすめていく。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	9,488
世	帯 数(世帯)	3,408
4	歳以下人口(人)	359
4	歳以下人口比率(%)	3.8
14	歳以下人口(人)	1,121
14	歳以下人口比率(%)	11.8
65	歳以上人口(人)	1,387
高	齢 化 率(%)	14.6

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 21	第 1 回懇談会	11	3	2
05. 10. 3	第 2 回懇談会	24	5	2
05. 11. 2	第 3 回懇談会	20	4	2
06. 2. 1	確 認 会 議	10	1	2

延べ**86**名が
計画づくりに参画！



風早北部地区計画

風早北部地区健康福祉活動

重点目標

- ◎人と人とのきずなづくり。
- ◎区と地区社協との連携。
- ◎学校と地区社協との連携。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎日頃行っている活動を通して、地域活動への理解を得る。
- ◎声を掛けあえる人とひととのつながりができるような場を広げて行く。

よりよい連携の中での活動を目指して

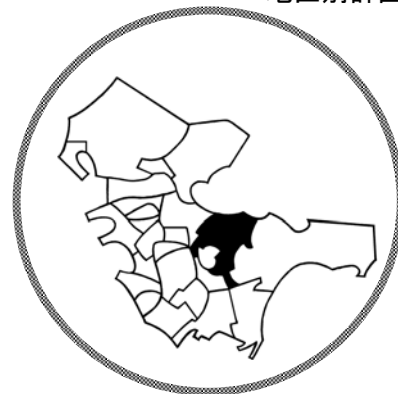
- ◎企画の内容、日時について情報交換をすることで、それぞれの企画を効果的に実施する。
- ◎既に展開している活動に、新たな対象が参加できるようにすることで、幅広い世代間の交流の場をつくる。
- ◎ニーズを把握している民生委員・児童委員（主任児童委員）とどのように連携するかが課題。
- ◎若い世代がどう考えているか知ることから連携関係

活動上の悩みの解決方法

- ◎現在、拠点は、会長宅で軌道に乗っているが、今後に向けて、いくつかの案を、市社協、市、関係機関などと検討する。
- ◎活動内容について、宣伝することで、新しい担い手を掘り起こす。また、気軽に「お手伝い」としての参加から、ひとづくりをしていく。
- ◎情報については、支えあい登録カードを充実することで、地区社協として持つ情報を充実させる。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎新しい集合住宅には、地区のエリアにこだわらず、社協行事に関して声かけをする。
- ◎支えあい登録カードの活用を充実させる。
- ◎児童福祉の問題は難しさがあるが、近隣住民として普段からのあいさつを大切にする。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	7,650
世	帯 数(世帯)	2,415
4	歳以下人口(人)	291
4	歳以下人口比率(%)	3.8
14	歳以下人口(人)	913
14	歳以下人口比率(%)	11.9
65	歳以上人口(人)	1,214
高	齢 化 率(%)	15.9

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 7. 29	第 1 回懇談会	12	3	1
05. 9. 8	第 2 回懇談会	25	6	1
05. 11. 14	第 3 回懇談会	13	3	0
06. 2. 21	確 認 会 議	9	1	2

延べ**76**名が
計画づくりに参画！



風早南部地区計画

風早南部地区健康福祉活動

重点目標

- ◎世代間交流の場づくり。
- ◎何かあった時に助け合える環境づくり。
- ◎高齢者との話し合える場づくり。

住民主体の地域づくり を目指して

- ◎町会の魅力を積極的に広報すると共に、各種イベントなどの企画の見直しや新たな交流機会をつくり、隣近所のコミュニケーションづくりに努める。
- また、学校や福祉施設などとの連携を深め、地域ぐるみで、助けあい支えあい意識の醸成を図る。

よりよい連携の中での 活動を目指して

- ◎地域と学校の連携による環境美化活動の展開。
- ◎地域ぐるみの防犯パトロールの実施。
- ◎地域と学校の連携による世代間交流の推進。
- ◎区と地区社協、福祉施設の連携による健康福祉の推進。
- ◎民生委員・児童委員（主任児童委員）と柏市民健康づくり推進員による事業協力と連携強化。
- ◎子ども会の見直しによる区（町会）活動への若い世代の加入促進。

活動上の悩みの 解決方法

- ◎地域福祉推進役のリーダーは、区長に指名してもらう。
- ◎負担増が原因と思える担い手不足の解消のため、一人一役など役割を分散する。また、区からの選任や報酬制の導入も検討する。
- ◎一般的な受益者負担の考え方はあるものの、地域住民全体を対象とする健康福祉活動については、その活性化を図るため、行政施設や備品、また「いこい号」の使用についても無料化を要望する。
- ◎見守り活動などによる地域の支え合いを推進するため、個人情報の保護ができる新たなしくみを行政が整備し、対象者名簿を関係者に配布する。また、地域においては、区の回覧や口コミなどにより、情報提供の機会拡充を積極的に推進する。
- ◎少子高齢化による地域全体の健康福祉活動の重要性が増す中で、区と地区社協の人的交流をすすめ、連携を強化する。

安心して住み続けられる 地区を目指して

- ◎若い人や転入者に対し、区の活動への参加を促すしくみづくりが必要。
- ◎ふれあいサロンや地区懇談会（交流会）など、身近な催しへの声かけをきっかけに、助けあいや支えあいの気持ちを育むような取り組みが必要。



地区データ

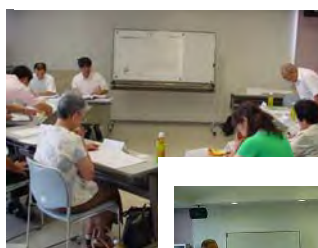
平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	8,478
世	帯 数(世帯)	2,470
4	歳以下人口(人)	382
4	歳以下人口比率(%)	4.5
14	歳以下人口(人)	1,152
14	歳以下人口比率(%)	13.6
65	歳以上人口(人)	1,084
高	齢 化 率(%)	12.8

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 6	第 1 回懇談会	8	2	3
05. 9. 3	第 2 回懇談会	19	4	2
05. 9. 17	第 3 回懇談会	13	2	1
06. 1. 28	確 認 会 議	9	1	1

延べ**65**名が
計画づくりに参画！



高柳地区計画

高柳地区健康福祉活動

重点目標

- ◎今ある活動を大切にしながら、団体・個人が交流を持ち、会話のできる地域づくり。
- ◎孤立傾向にある住民に対し、周囲の目配り、気配り、見守り意識を福祉活動関係者からはじめ、地域のネットワークを広げていく。
- ◎子どもへのサポート活動（登下校等の児童の見守り・子ども会との連携）。
- ◎行政に頼らないで活動できる体制づくり

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎世代を超えた住民同士が、コミュニケーションをとれる場を設ける。
- ◎防犯・交通安全活動等を通じ、あいさつ運動ができる環境をつくる。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎個々の団体が活動をオープンにし、情報を共有化できるしくみをつくり連携を図る。
- ◎地域での文化を継承させるため、活動主体が門戸を開く。また異世代との交流を図り、新しい世代が活躍できる場をつくる。
- ◎「安全」をキーワードに、地域と学校の連携を強化し、若い世代の親とつながりを持つ。

活動上の悩みの解決方法

- ◎誰もが参加しやすく、若い世代がリーダーとして、また継続して活動が行えるような体制をつくる。
- ◎良い組織体制をつくるには、より専任で、各自が適材適所の役割分担で活動できるしくみが必要。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎情報の共有化や意見交換を図れる場を設け、地域ネットワークの充実を図る。
- ◎活動の押しつけではなく、活動の選択肢を広げ、いろいろな人が参加できる環境をつくる。
- ◎地域での子供への目を増やし、それが高齢者の楽しみ、生きがいにつながるような事業を展開する。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	16,031
世	帯 数(世帯)	5,137
4	歳以下人口(人)	856
4	歳以下人口比率(%)	5.3
14	歳以下人口(人)	2,625
14	歳以下人口比率(%)	16.4
65	歳以上人口(人)	2,074
高	齢 化 率(%)	12.9

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 8. 6	第 1 回懇談会	13	2	3
05. 10. 1	第 2 回懇談会	19	3	2
05. 12. 3	第 3 回懇談会	21	3	3
06. 1. 28	確 認 会 議	9	2	2

延べ**82**名が
計画づくりに参画！



手賀地区計画

手賀地区健康福祉活動

重点目標

- ◎知らせあい、誘いあい、支えあい精神の啓発及び活動の展開。
- ◎地域の拠点整備（確保）。
- ◎住民が話し合う場、懇談する場の設定。
- ◎健康づくり、介護予防につながる取り組み。

住民主体の地域づくりを目指して

- ◎若い世代も参加した懇談や地域別、世代別の井戸端会議の機会をつくる。
- ◎歩いて行ける距離にお茶飲みできるふれあいサロンなどの場をつくる。
- ◎知らせあい、誘いあい、助けあいの精神をもちながら、何事にも楽しく活動を行う。

よりよい連携の中での活動を目指して

- ◎区（長・役員）、学校（先生、PTA、評議員）、民生委員・児童委員（主任児童委員）、老人クラブ、福祉委員、福祉団体・施設職員、行政職員、その他（個人や団体）が話し合う機会、情報交換や意見交換ができる場「懇談会」を定期的に行う。
- ◎区を越えた交流の場、活動の場をつくる。

活動上の悩みの解決方法

- ◎リーダーは、仕事を分散できるよう調整会議を行い、PTA等の若い世代にも参加してもらい、悩みや解決策を一緒に考えていく場を設け、担い手の裾野を広げる。
- ◎地域の情報や趣味活動ができるようなふれあいサロンを展開し、地域連帯感を図る。
- ◎地域の活動拠点をつくる。まずはどんぐりの家が利用しやすくなるよう関係機関に働きかけていく。
- ◎市社協職員が地域にでられるよう要望する。

安心して住み続けられる地区を目指して

- ◎協調性、顔見知りが多い関係を維持していく取り組み。
- ◎伝統行事に多くの住民が触れさせる機会をつくる。
- ◎同世代及び世代間が交流できる取り組み、しくみづくりを行い、全住民が区会に加入する取り組み。
- ◎不法投棄や空き巣防止のため、荒地をつくらないようにする取り組み。



地区データ

平成 17 年 4 月 1 日現在

人	口(人)	5,052
世	帯 数(世帯)	1,095
4	歳以下人口(人)	135
4	歳以下人口比率(%)	2.7
14	歳以下人口(人)	560
14	歳以下人口比率(%)	11.1
65	歳以上人口(人)	1,105
高	齢 化 率(%)	21.9

計画策定の経過

期 日	内 容	地 域	市 社 協	行 政
05. 9. 28	第 1 回懇談会	10	3	2
05. 10. 25	第 2 回懇談会	26	5	2
05. 11. 22	第 3 回懇談会	25	5	1
06. 2. 21	確 認 会 議	7	1	2

延べ**89**名が
計画づくりに参画！



5 地区別計画づくりまでの取り組みと成果は？

平成 15～16 年度モデル地区とは？

地区別計画づくりに向けて、西原と南部がモデル地区としてさまざまな健康福祉活動を実践し、先行事例となりました。

地区別計画づくりにあたって、平成 15～16 年度の 2 ヶ年にわたり、西原・南部をモデル地区として、それぞれの地域性に応じた懇談や具体的な活動が実践されてきました。この実績は、他の 22 の地区別計画づくりへ向けた先行的な取り組みとなりました。

①懇談会の実施

モデル地区として、まずはじめたものが「懇談会」です。懇談会では、地域に住むさまざまな方々が集い、「地域での課題や町会・自治会での健康福祉活動の必要性」の話し合い、事例発表などを行いました。

懇談会は、期間内に数回行われ、「課題の集約や情報交流」の場となり、これまで以上の連携関係づくりや町会・自治会単位での健康福祉活動ができていきました。

②町会・自治会単位の身近な助けあい支えあい活動の広がり

懇談会での「身近な助けあい支えあいが何故、今必要なのか？」「町会・自治会単位でできることとは何か？」などといった話し合いから、地域に根づいた活動が広がっていきました。

③地域住民ヒアリングの実施

より地域に密着した活動を目指して、住民各層の生の声を聞くということで開催されたのが、「地域住民ヒアリング」です。対象は、中学生、子ども会、介護者、老人クラブ、障がい者（児）で、内容は、現状や地域の課題や期待したい活動、今後についてなどをヒアリングしました。

その結果、地域活動への新たな理解者や参加者が増え、住民各層の知恵や工夫による活動へとつながっていきました。

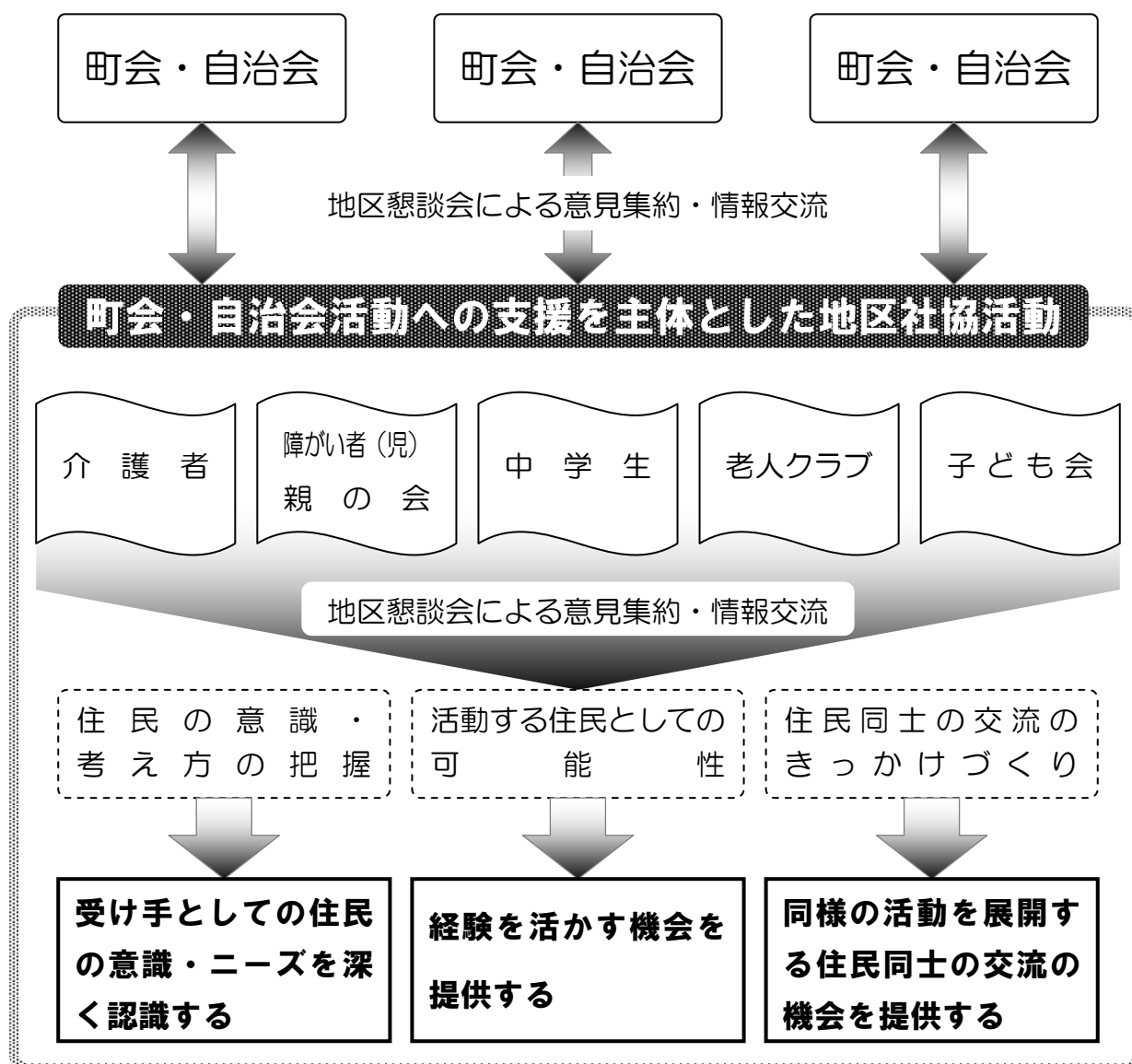
平成 15～16 年度モデル地区活動の特徴は？

地区懇談会による意見集約と情報交流を通じ、町会・自治会活動への支援を主体とした地区社協活動です。

平成 15～16 年度のモデル地区活動の成果及び今後の地区社協活動の充実に向けた課題を整理すると下図のようになります。

**西原・南部地区社協
の特徴！**

モデル地区活動の位置づけ（模式図）



西原地区の取り組み

ふれあい研修会の開催

モデル期間中3回の懇談会を実施。身近な地域での助けあい支えあいの必要性を話し合いました。



ふれあい研修会

身近な地域で子育て支援活動

就学前の親子が仲間づくりやふれあいが、より身近な地域場で展開されています。



ぴよぴよくらぶ

町会単位の活動の広がり

身近な町会単位での健康福祉活動が展開されています。

- ◇町会単位の世代間交流
- ◇町会単位で高齢者のふれあいの場づくり
- ◇町会単位の健康福祉活動

地域住民ヒアリングの実施

中学生、子ども会、老人クラブ、障がい者（児）、介護者の方々から、安全・安心・快適な「まちづくり」についての意見をいただきました。



グリンピース（十余二緑町町会）

今後の活動に向けて

安全・安心・快適なまちづくりの推進
連携・協働の強化



お茶飲み会（西原第四町会）

- ◇高齢者や障がい者（児）の方々にとって参加しやすい環境づくり
- ◇防災マップの作成と個人情報保護の問題への取り組み
- ◇地域のボランティアの育成
- ◇町会・自治会との一層の協力
- ◇活動の積極的なPR
- ◇子育てサロン、訪問ボランティアの立ち上げ



南部地区の取り組み

モデル
実績

地区懇談会の開催

モデル期間中5回の懇談会を開催。話し合いや事例発表を通じて、「町会単位の健康福祉活動」を推進しました。

町会単位の支えあい活動

身近な町会単位での健康福祉活動が展開されてきています。

わらびヶ丘町会・・・ふれあいサロン
小 新 山 町 会・・・日常生活支援、防犯
逆 井 町 会・・・ふれあいサロン、防犯
新 栄 町 町 会・・・送迎、軽作業、日常生活支援
ふれあい喫茶
協 栄 町 会・・・声かけ、見守り
新 並 木 町 会・・・世代間交流

地区社協の新しい支えあい活動

これまでの既存活動にくわえて、新しい支えあい活動が生まれました。

◇みんなの喫茶
◇障害者自立支援施設デイサービスたいようとの協働
◇地区ヒアリング

今後の活動に向けて

「やっぱり住んで良かった南部地区に！！」

◇全町会・自治会での支えあい活動の推進
◇地区、町会・自治会単位での福祉懇談会の継続
◇地区ボランティアネットワークの拡大・充実



地区懇談会



敬老事業（新並木町会）



ふれあい喫茶「陽だまり」（新栄町会）



みんなの広場



みんなの喫茶

地域福祉関係者アンケートとは？

地区別計画の策定に向けて各地区社協（旧柏市 19 地区）の運営委員を対象に実施した「健康福祉」のアンケートです。

平成 17 年 2 月～3 月にかけて、各地区社協（旧柏市 19 地区）の運営委員を対象に、「地域福祉関係者アンケート」を実施しました。本アンケートは、現在の活動状況、各地区社協における地域の健康福祉を高めるための課題及び課題を解決するために必要な方策などを把握し、計画づくりの基礎資料とすることを目的として、実施したものです。

調査実施時期 平成 17 年 2 月～3 月

調査回収状況

【調査方法】各地区社協運営委員を対象。
各地区社協単位で配布回収。

【協力依頼数】 842 人

【有効回収数】 486 人

【有効回収率】 57.7%

①回答者の平均年齢は、61.6 歳で、性別は男性 36.8%、女性 61.9%。

②地域の健康福祉活動年数は、「3～5 年未満」と「5～10 年未満」の方が、約 40%を占めています。

③現在取り組んでいる主な活動

高齢者福祉（見守りや定期訪問、健康づくりなど）	61.5%
町会・ふるさと協議会関係	53.9%
季節行事の運営（お祭りや伝統行事など）	38.1%

④今後重視すべきと思う活動

防犯、防災対策（巡回パトロール、情報提供など）	37.0%
高齢者福祉（見守りや定期訪問、健康づくりなど）	36.8%
青少年健全育成（不登校、閉じこもり対策など）	30.9%

⑤地域住民からの相談方法

本人や関係者からの電話	47.9%
町会・自治会からの連絡	42.4%
民生委員・児童委員（主任児童委員）からの連絡	31.5%

⑥連携している団体

町会・自治会	60.5%
民生委員児童委員協議会	47.5%
市社協	43.8%

⑦今後連携を深めたい団体

町会・自治会	52.7%
市社協	36.4%
民生委員児童委員協議会	30.9%

⑧地域で支えあうしくみづくりをするために必要と思われること

地域の方々が知り合う機会や活動する場所を確保する	62.8%
地域での健康福祉活動に参加	42.0%
事業者などと住民組織が連携する機会を増やす	40.3%

⑨健康福祉を推進するため、地域住民が取り組むべき課題

地域での支えあいによる高齢者の支援	58.4%
地域ぐるみで子どもたちの成長を助けること	43.6%
さまざまな住民が集まることのできる場の設置	35.6%

⑩健康福祉を推進するため、組織が取り組むべき課題

地域の人材（地域ボランティア等）を育てる	60.3%
町会・自治会が地域とのつながりをもっと深める	56.0%
行政がもっと積極的に関与する	40.5%

⑪健康福祉を推進する地域の人材を増やすために必要なこと

催し物等を通じて、健康福祉への協力を呼びかける	60.3%
健康福祉の重要性のPR等を積極的に行う	56.0%
地域におけるボランティアセンター的機能を充実させる	40.5%

⑫地区社協の活動を充実していくために必要なこと

地域住民の方に活動内容を積極的にアピールしていく	66.9%
町会・自治会との協力関係を深めていく	57.4%
新たな地域ボランティアを育成していく	37.7%

⑬市社協や行政に対する要望や期待

高齢者福祉（見守りや定期訪問、健康づくりなど）	61.5%
町会、ふるさと協議会関係	53.9%
季節行事の運営（お祭りや伝統行事など）	38.1%

アンケートの自由回答もご覧ください

アンケート自由回答

〈その1〉どのような団体とどのような連携を図っているか（抜粋）

◇町会・自治会

防犯パトロール、高齢者や一人暮らしの見回り。

◇民生委員・児童委員（主任児童委員）との連携

地区福祉活動の推進と問題の抽出、打開策の検討協議を実施。

◇柏市民健康づくり推進員との連携

老若男女地域の人たちと少しでも顔見知りになる機会をつくり連携している。

◇老人クラブとの連携

地区社協のボランティア部の活動と連携して活動に参加。／学校の総合学習を通じて相互の親睦を深め、老人が地域で豊かに生きることを目的に活動の運営に参加。

◇ボランティア・NPO団体との連携

町会での高齢者を対象とする定例昼食会に、ボランティアが調理の手伝いや話し相手になっている。

◇学校、PTAとの連携

児童の登下校時のパトロールに参加。／ふれあい給食会に参加、各種事業への参加、各種事業への協力要請、必要に応じ参加。

◇在宅介護支援センターとの連携

高齢者の在宅支援訪問。

・・・など

〈その2〉健康福祉を推進するために必要と思われること、地域の課題、市社協や行政への要望等（抜粋）

◇互いの顔がわからない新興住宅地において、地域住民の交流活動が必要。そのためには、地域住民共通の利害関係のある安全面（防犯・防災）、環境面（清掃、ゴミの出し方、違法駐車等）から入って、地域の連帯意識を持つことが必要。

◇高齢者にかぎらず安心して歩ける歩道の整備。社協＝高齢者の思いが強く、子育て支援、障がい者への取り組みが不足していると思う。

◇家庭と学校と地域が一体となって子どもを見守る対策が必要。今、子育て中の親はもちろん、中高年以上の世代が“地域の子どもたちを地域で見守る”という意識をもって子どもの安全対策に目を向けてほしい。

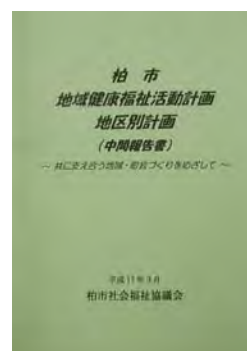
◇地域の人に声をかけて自分たちでつくった、参加したと連帯感のもてる地域福祉になればと思う。協力、理解してもらうためにはやはり参加しやすいことが大事。また、企画、アイデアなどを拾ってみて新しい風を入れることも必要だと思う。

◇地域に住む子ども、高齢者、障がい者、全ての人が心身共に健康で生きていけるようにする。そうあり続けることが、目的であると思う。そのためには、何をしたらよいかを考えればおのずとやるべきことが見えてくると思う。

・・・など

**平成15～16年度モデル地区実績と
地域福祉関係者アンケートを掲載！！**

**柏市地域健康福祉活動計画
地区別計画 （中間報告書）**



各地区の計画書が完成するまでのようすは？

各地区で行われた懇談会では、地域の実情に応じたさまざまな意見が交換され、地区別の計画づくりにつながりました。

はじめに

地区別計画づくりに向けた地区懇談会は、3回の懇談会と計画素案の確認会議の合計4回のお場をつくりました。

なお、懇談会の実施にあたっては、各地区社協を中心に、地区内の各種団体、学校、福祉施設、ボランティアなど、地区のあらゆる分野の方々に声かけをし、市社協、行政も一緒になって話し合いました。

地区別計画策定までの流れ

- ①第1回地区懇談会
※現状の把握と課題の発見
- ②第2回地区懇談会
※課題に対する解決方法
- ③第3回地区懇談会
※今後の活動に向けて
- ④確認会議
※重点目標の設定
- ⑤地区別計画策定
※地区別計画（全24地区）

第1回懇談会 ～現状の把握と課題の発見～

■懇談テーマ

【各地区10名程度／ヒアリング形式／約2時間】

- ①わたしたちの地区の活動って？ ～現状把握～（活動マップづくり）
- ②現在のさまざまな地域住民像って？ ～住民の考え方やライフスタイルとは～
- ③どんな団体や個人と協力し合ってますか？ ～活動の連携関係～
- ④活動上の悩み ～活動していく中での問題点～
- ⑤地区の「良いところ」「問題なところ」とは？ ～地区が抱える問題～

こんな意見がありました！

- ◇昔のような「あいさつ」を交し合うような雰囲気になくなってきている。
- ◇一人暮らしの方を地域で支援したくても、個人情報の問題などにより難しくなっている。
- ◇活動の悩みは、やはり「担い手」や「リーダー」がなかなかいないこと…。
- ◇子どもたちをはじめとする「防犯」や災害時に備えた「防災」の取り組みは、もっと必要。



第2回懇談会 ～課題に対する解決方法～

■懇談テーマ

【各地区30名程度／グループワーク／約2時間30分】

- ①地区活動マップの確認
- ②理想の地域住民像を目指して！
- ③連携と協力の中での活動を目指して！
- ④活動上の悩みの解決方法！

第2～3回懇談会では、少人数のグループに分かれて話し合いをして、最後にグループのリーダーさんから発表しました。

こんな意見がありました！

- ◇理想は、隣近所を大切に思い、日頃からあいさつや話し合いが持てること。また、老若男女を問わず、町会活動を大切に思い、みんなが加入していること。
- ◇理想に近づけるために、町会でいろいろな人が出会い、ふれあえる「きっかけ」や「場」をつくっていききたい。一声（あいさつ）運動など。
- ◇連携づくりは、さまざまな地域団体との「意見交換」の場をつくっていくことが重要。
- ◇リーダーの確保は、まずリーダーに過剰な負担がかからないように、役割分担をする。そして、時間をかけて後継者を育てていくこと。
- ◇担い手の確保は、活動の見直しや仲間を誘って、参加しやすい雰囲気をつくっていくこと。
- ◇町会未加入や転入者へは、班長などが説明をして、町会に加入してもらえるようにする。
- ◇拠点の確保は必要。地区社協の事務所が欲しい。



第3回懇談会 ～課題に対する解決方法～

■懇談テーマ

【各地区30名程度／グループワーク／約2時間30分】

- ①よりよい地区を目指して！
- ②わたしたちの地区が取り組む重点目標！
- ③地区社協に期待すること
- ④市社協・行政に期待すること

こんな意見がありました！

- ◇よりよい地区に向けて、民生委員・児童委員（主任児童委員）と柏市民健康づくり推進員、また関係者と積極的に連携していくことが大切。／子育て支援や障がい者福祉の推進に向けた取り組みが必要。
- ◇重点目標は、世代間の交流をすすめるため、ふれあいサロンへの子どもたちの参加や昔遊びを伝承するなど、学校との連携を深める。／助けあいのグループづくりや助けあいカードの作成、隣近所や班による声かけ運動。
- ◇地区社協に期待することは、人材育成／地区社協を知ってもらうためのPR活動／地域の組織や団体とのパイプ役／身近な活動（サロンやおせつ会など）への支援
- ◇市社協・行政に期待することは、地域の活動と一緒にやってほしい。／地域活動に必要な情報提供をしてほしい。／人材育成を幅広くやってほしい。



確認会議 ～地区別計画書づくり～

■内容

【各地区10名程度／グループワーク／約2時間】

- ①懇談会内容の確認
- ②地区別計画書（案）の確認と地域健康福祉活動計画への反映
- ③今後の取り組みについて



確認会議では、懇談会で話し合われた結果をもとに、今後の地域活動をすすめていくための「みちしるべ」を確認しました。

地区別計画書の完成！ ～地域の健康福祉活動の「みちしるべ」～

■掲載内容

- ①地区別計画の概要
- ②策定までの流れ
- ③今後の取り組み
- ④24地区社協単位の地区別計画書

別冊の地区別計画書です！！
各地区の計画やこれから毎年更新していく地区活動マップが掲載されています！！

